

平成24年度

連携型中高一貫教育に係るアンケート調査

結果と考察



平成25年3月

神石高原町教育委員会

目 次

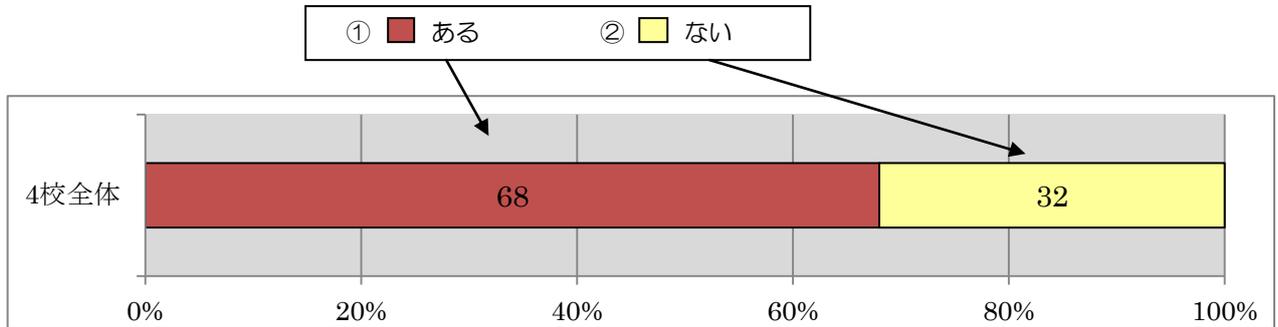
	ページ
I. 中 学 生 編	1 ~ 8
II. 高 校 生 編	9 ~ 11
III. 小・中学校保護者編	13 ~ 18
IV. 地 域 編	19 ~ 21
V. 中・高教職員編	23 ~ 25

回 答 者 数

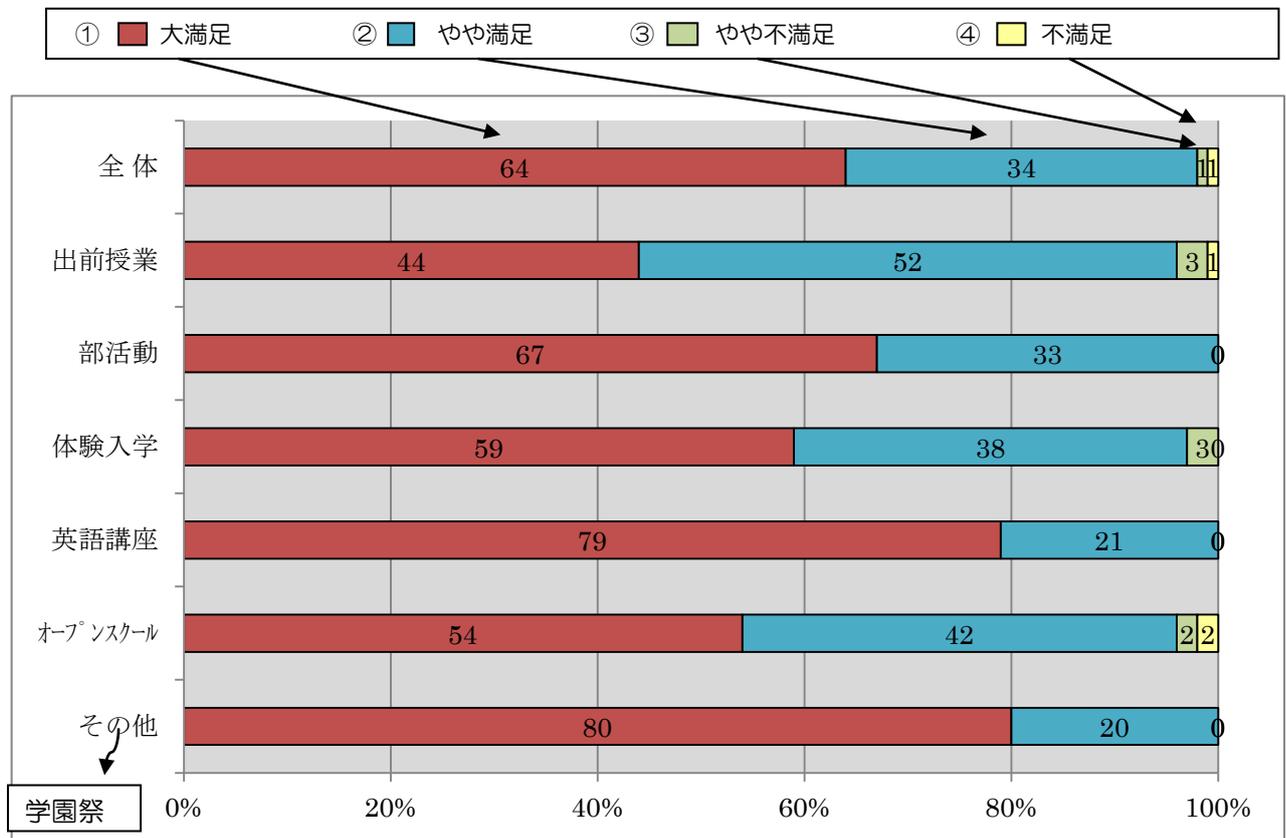
1. 中 学 生	回答者数 <u>203人</u> / 在籍者数 206人
2. 高 校 生	回答者数 <u>170人</u> / 在籍者数 179人
3. 小 学 校 保 護 者	回答者数 <u>206人</u> / 対象児童数 220人
4. 中 学 校 保 護 者	回答者数 <u>184人</u> / 生徒総数 206人
5. 地 域 ・ 一 般	回答者数 <u>51人</u> / 質問者数 76人
6. 中 ・ 高 教 職 員	回答者数 <u>70人</u> / 全教職員数 72人

I. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（中学生）の結果と考察

1(1) あなたは本年度、油木高校の先生や生徒さんから指導してもらったり、一緒に活動をしたことがありますか。



(2) 上記(1)の質問で「① ある」と答えた人で、それはどうでしたか。

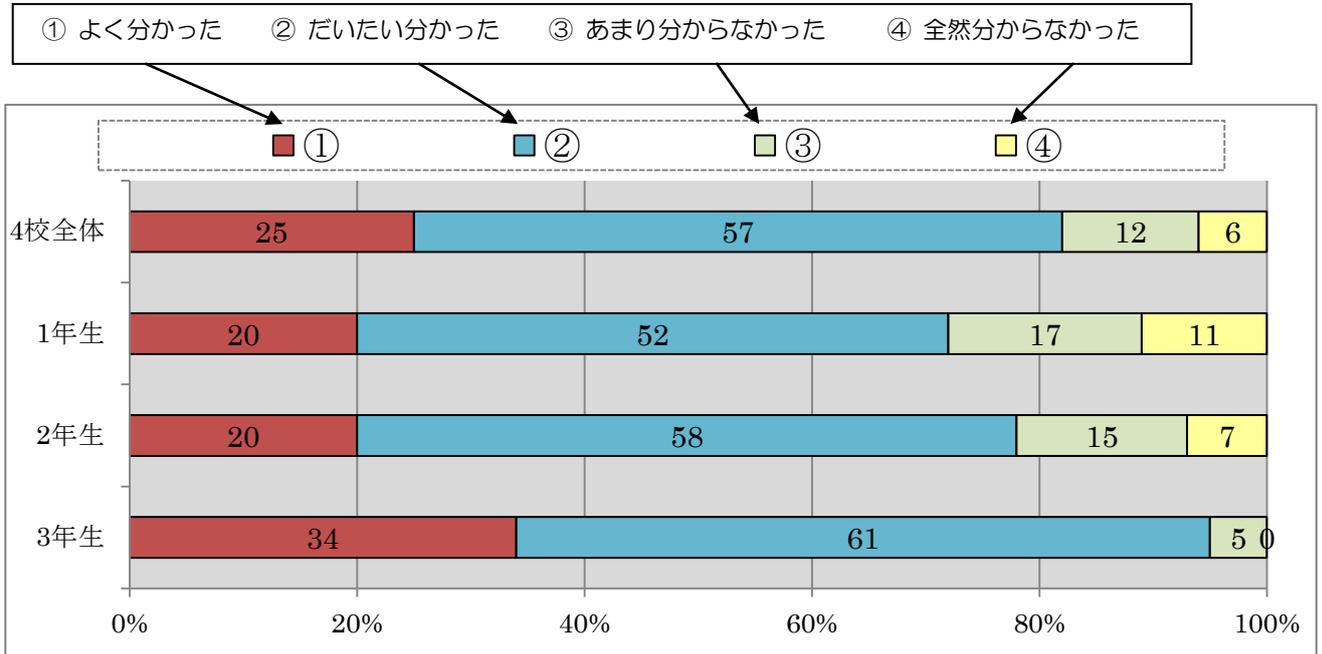


- ・ (1)の問いでは、「指導してもらったり、一緒に活動したことがある」が全体では68%であるが、各校1年生と3年生は全員参加しているはずが、無回答の生徒が多少いた。実質的には80%の実施率と思われる。
- (2)で「ある」と回答した生徒のほとんどが「満足」と肯定的評価をしている。
- どの項目においても半分以上の生徒が「大満足」と強い好感を抱いている。

考察 生徒に関わる様々な連携実践を通して教育効果を上げることが最大の目的であるだけに、今後できるだけ充実発展させていく必要がある。ただ、現在1高校対4中学校で対応していただいている油木高校の多大なる負担や配慮に感謝しながら実践を高めていきたい。

② 本年度、中学生全員に「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」や「油木高校パンフレット」を配布し、油木高校の状況などをお知らせしましたが、それらを見てどうでしたか。次の質問に教えてください。

(1) 内容的にはどうでしたか。



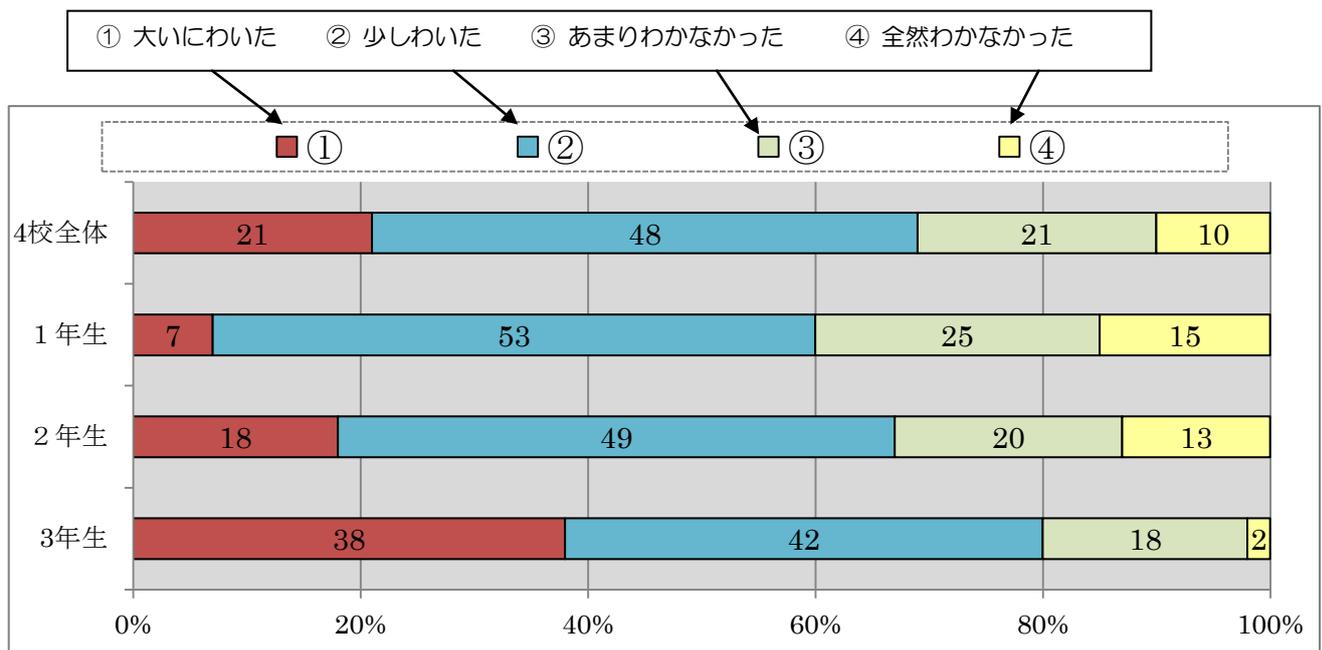
○ 全体的には80%以上の生徒が「内容的には分かる」と肯定的回答をしている。

● 内容的に「全然分からなかった」が、1年生で11%、2年生で7%いた。

・ 高学年ほど内容理解度が高くなっている。

考察 本年度は中学生全員に広報紙を配布したため、全員読んだようであるが、内容的に1・2年生には少し難しい所があったようで、内容検討も必要であるが、生徒への配布時に、先生の方から是非とも説明や注釈などしながら進路指導の一つとして活用や指導をお願いしたい。

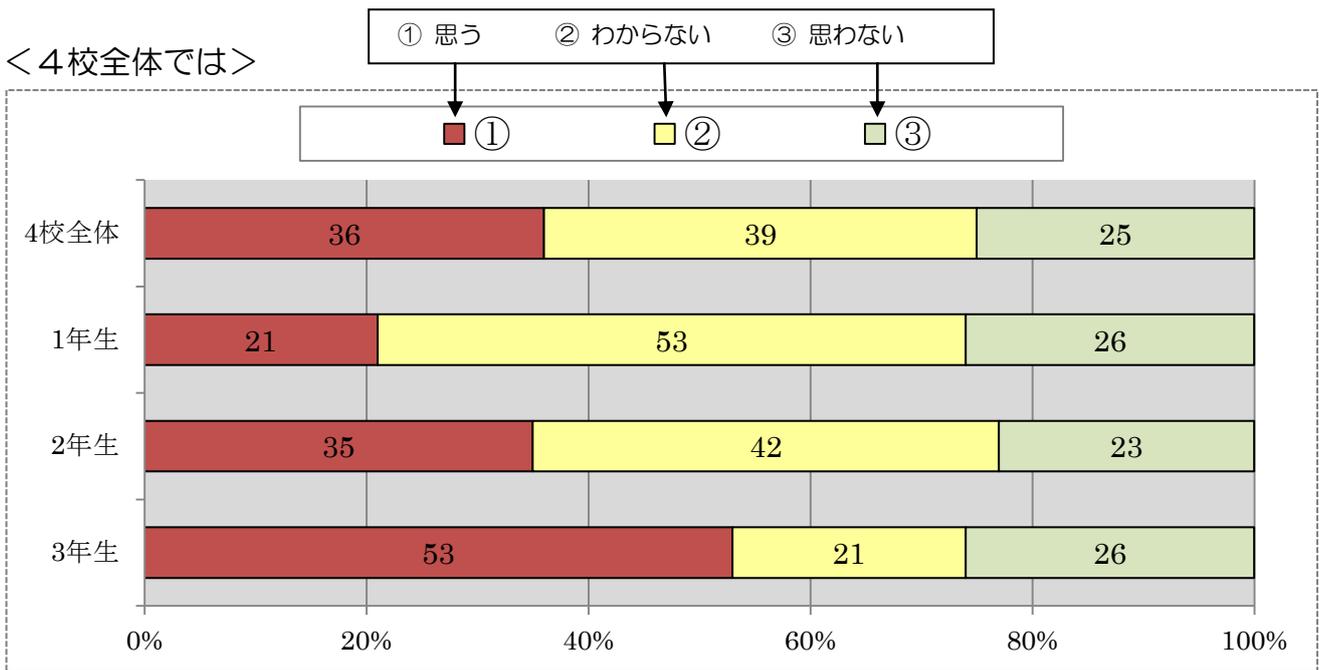
(2) それらを見て、油木高校への関心がわきましたか。



- 全体的には約70%の生徒が「関心がわいた」と肯定的回答をしている。
- 関心が「全然わかなかった」との回答が、1年生で15%、2年生で13%である。
- ・ 高学年ほど関心度が高くなっている。

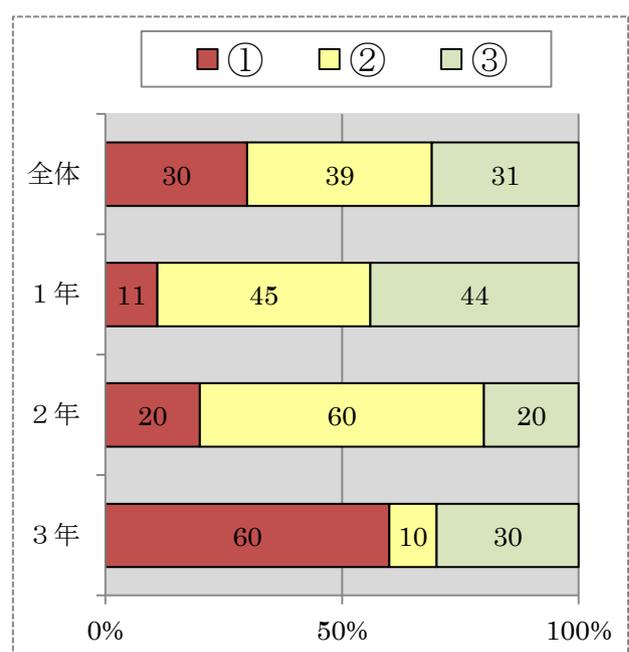
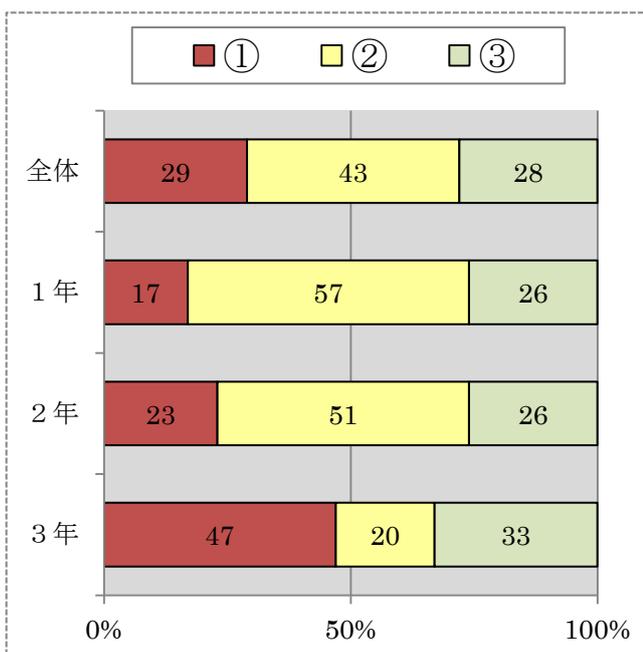
考察 本年度は、これまで内容的には油木高校の教育実践や教育実績を中心に取り上げてきた。そのために油木高校への関心度が高まったものと思われる。今後もより油木高校への関心度が高まるような中身づくりが必要である。中学校の進路学習において、是非とも「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」や「油木高校パンフレット」を大いに活用していただきたい。

③ (1) あなたは油木高校に進学したいと思いますか。

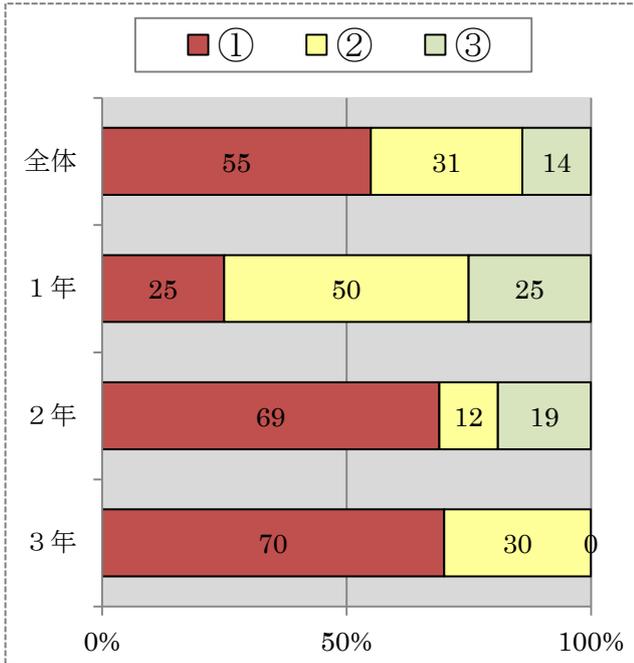


＜三和中＞

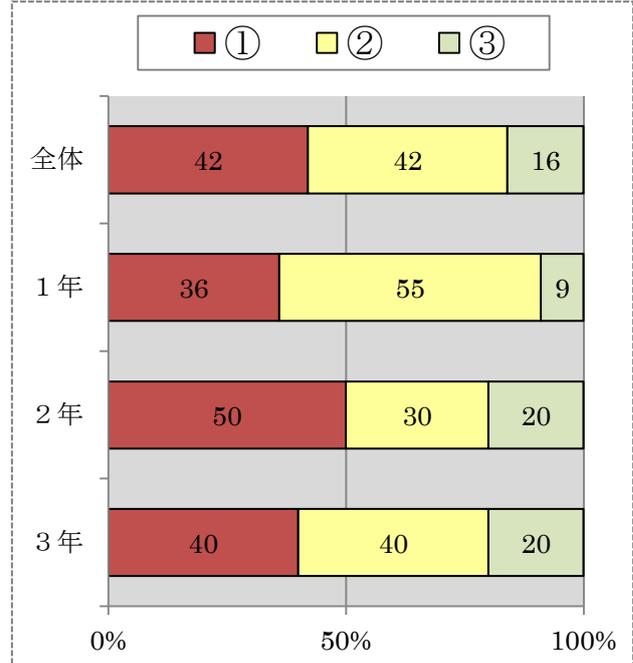
＜神石中＞



<油木中>



<豊松中>



○4校全体では、油木高校への進学を「希望する」(36%)が「希望しない」(25%)を上回っている。ちなみに、昨年度はその逆であった。(「希望する」29%、「希望しない」31%)

- ・昨年と同様に「わからない」(39%)が最も多い。(昨年度は40%)
- ・高学年ほど油木高校への進学希望者が増加傾向にある。
- ・各学校別で特徴的なのは、地理的要素からか油木中学校の希望者が多い。

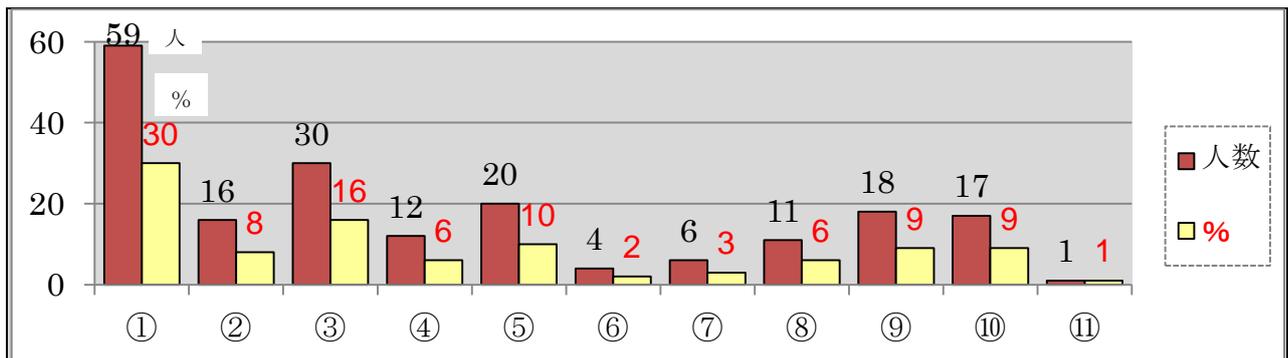
考察 4校全体で、油木高校への進学を「希望する」回答率が昨年度より7%アップし、反対に「希望しない」が6%減少していることから、取り組みの成果が多少感じられる。

しかし、50%以上をクリアしているのは、中3のみである。今後の取り組みが大変重要になってくる。また、1・2年生では「わからない」が最も多いだけに、更に取り組みを高めていかなければならない。

(2) 3(1)の質問で「① 思う」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

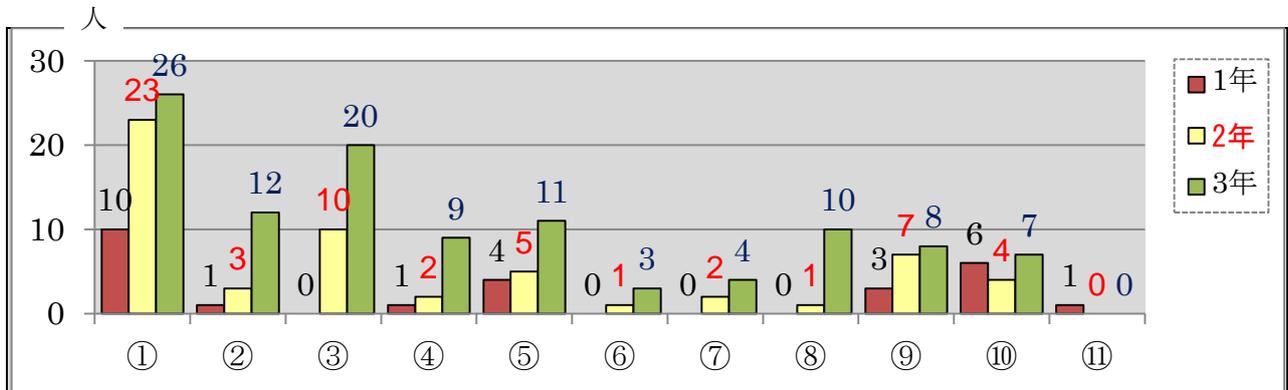
- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 自分の希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
 ⑦ 施設設備がよい ⑧ 通信衛星授業が受けられる ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<4校全体では>



- ① 通学 zu 便利 ② 進路実績 ③ 自らの希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
 ⑦ 施設設備がよい ⑧ 通信衛星授業が受けられる ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<各学年別の人数では>



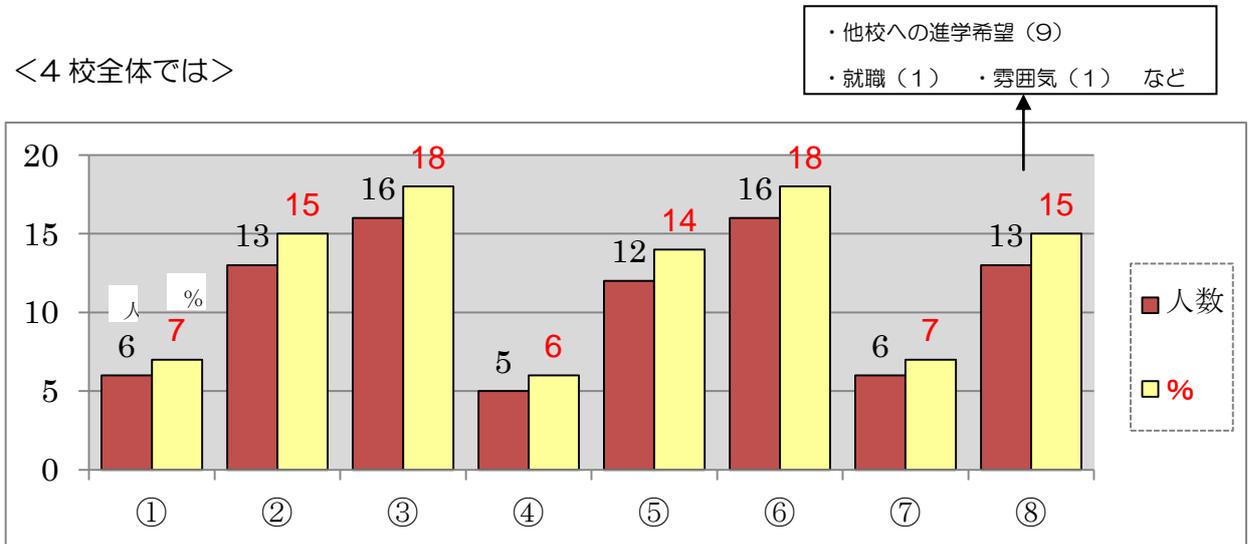
- ・ 4校全体で多い順は、1位：①「通学 zu 便利」(30%)、2位：③「自らの希望」(16%)、3位：⑤「クラブ活動面」(10%)、4位：⑨「親・家族の薦め」、「友人関係」と続いている(9%)。
- ・ 各学年別においても、概して同じような傾向であるが、その中で特に特徴的と言えるのは、3学年が②「進路実績」や⑧「通信衛星授業が受けられる」ことを理由として上げている生徒が多い。
- ・ 高学年になるに従って、多項目にわたって複数回答している生徒が多く見られる。

考察 希望の最大理由が「通学 zu 便利」と答えているだけに、地元高校の存続を今後も堅持していく必要がある。また、高学年ほど多項目にわたって複数回答しているということは、それだけ油木高校の良さを多方面にわたって感じていると思われる。そのことを低学年にも浸透するよう徐々にでも情報提供していく必要がある。

(3) 3(1)の質問で「② 思わない」と答えた人で、その理由とと思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

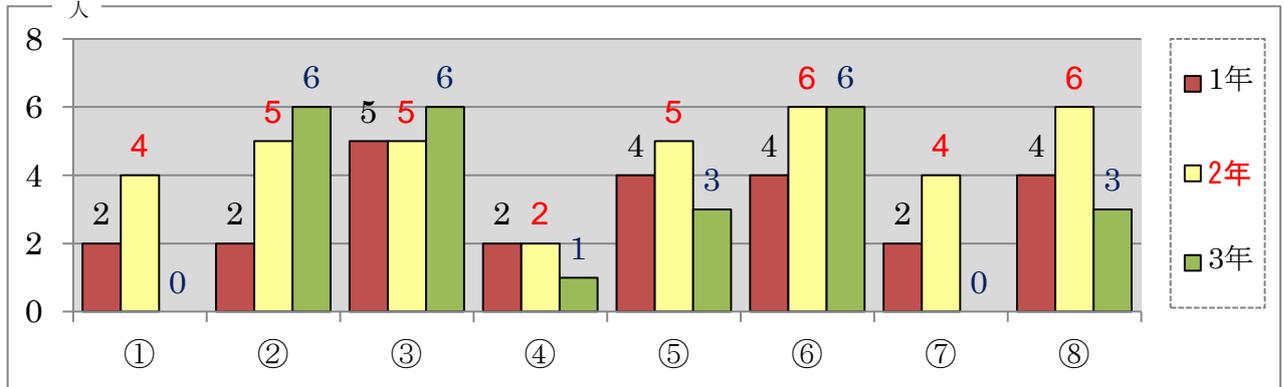
- ① 通学が不便 ② 教育内容面 ③ クラブ活動面 ④ 施設設備面
 ⑤ 希望の学科がない ⑥ 高卒後の進路面で ⑦ 友人関係 ⑧ その他

<4校全体では>



- | | | | |
|------------|------------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面で | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

<各学年別の人数では>



- ・ 4校全体で多いのは、1位：⑥「高卒後の進路面」で、③「クラブ活動面」(18%)、3位：②「教育内容面」(15%)、4位：⑤「希望の学科がない」(14%)となっており、ほぼ昨年度と同傾向にある。また、どちらかといえば多岐に分散化している傾向にある。
(昨年度は1位：「高卒後の進路面」(22%)、2位：「クラブ活動面」(15%)、3位：「希望学科なし」(13%)、4位：「教育内容面」(12%)の順である。)
- ・ 各学年別においても傾向的にはほぼ類似している。

考察 昨年度同様に「高卒後の進路面」がトップであるが、本年度はそのことを意識して油木高校の進路実績を中学生や保護者にアピールしてきたが、今後も粘り強くアピールしていく必要がある。尚且つ、進路実績における油木高校の有利性も具体的に説明していければとも考えている。

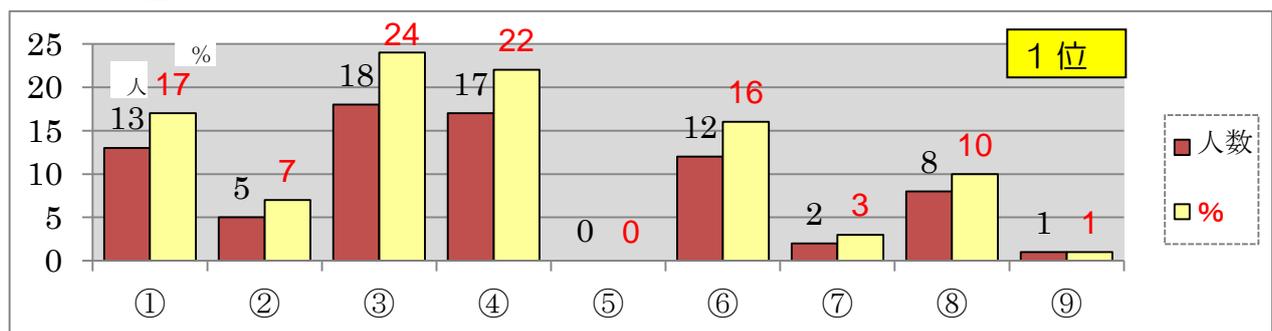
「クラブ活動面」における中身は具体的につかめていないが、小規模校でのデメリットもあるがメリットもあり、尚且つ、体育・文化クラブ両面で全国に羽ばたく先輩もいることをアピールしていければと考える。

「希望学科なし」は仕方ないが、「教育内容面」では、普通科・産業ビジネス科どこにも劣らない内容であることを十分説明していく必要がある。

- (4) 3(1)の質問で「③ わからない」と答えた人で、今後自分が進路選択する(高校を選ぶ)上で、重要視したいことはどんなことですか。 下記の①～⑨の中から重要視したい順番に2つ選び、番号で教えてください。

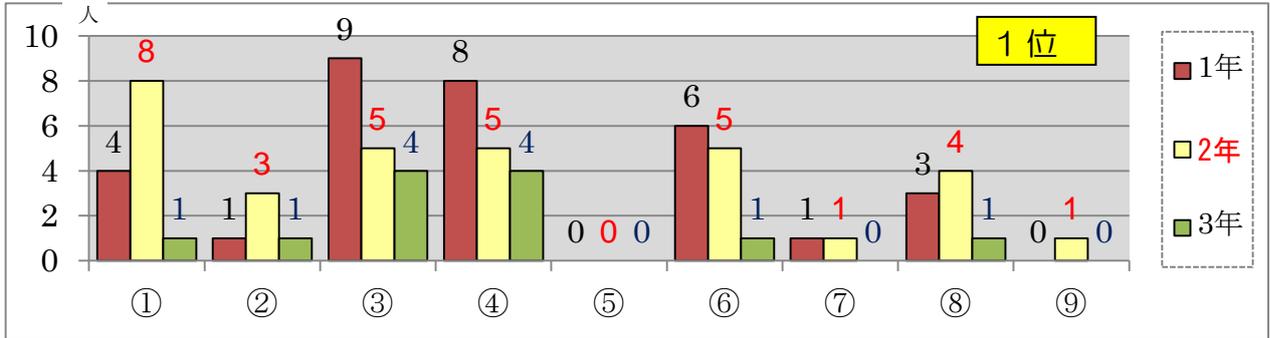
- | | | | | |
|----------|------------|--------|---------|---------|
| ① 通学便 | ② 伝統や校風 | ③ 進路実績 | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 親や家族のすすめ | ⑧ 友人関係 | ⑨ その他 | |

<4校全体では>

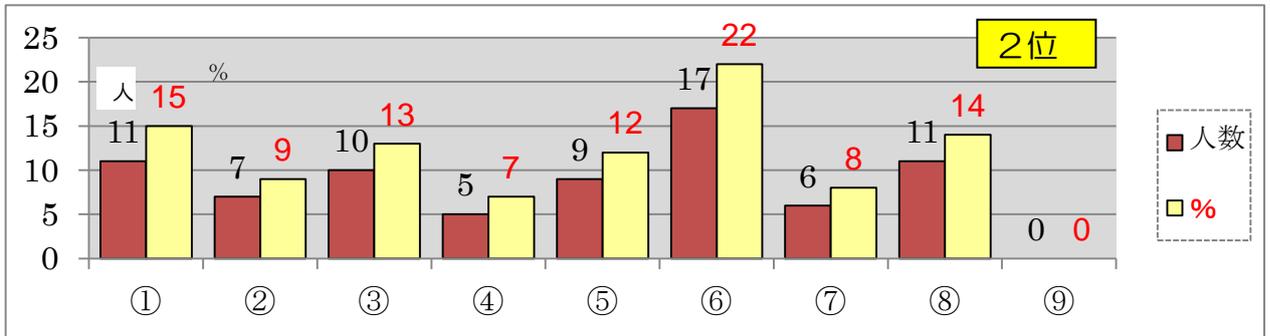


- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 進路実績 ④ 教育内容面 ⑤ 施設設備面
 ⑥ クラブ活動面 ⑦ 親や家族のすすめ ⑧ 友人関係 ⑨ その他

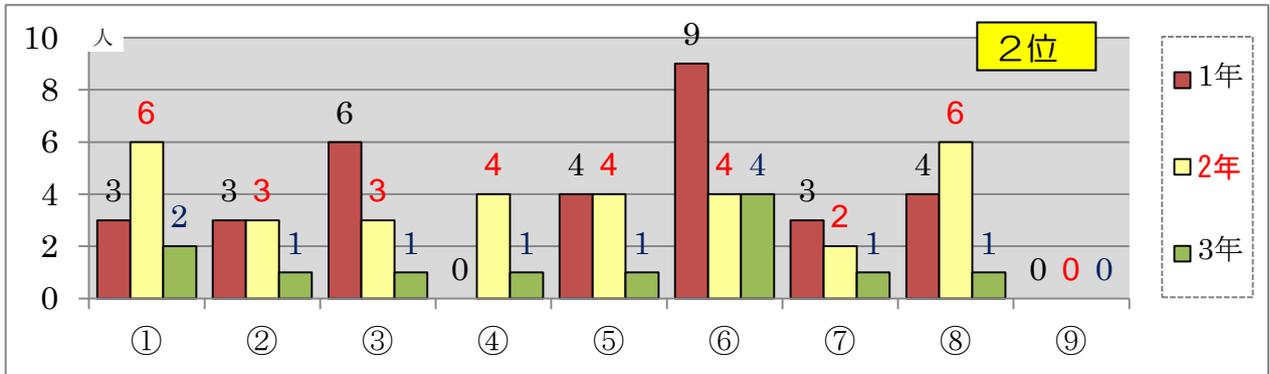
<各学年別の人数では>



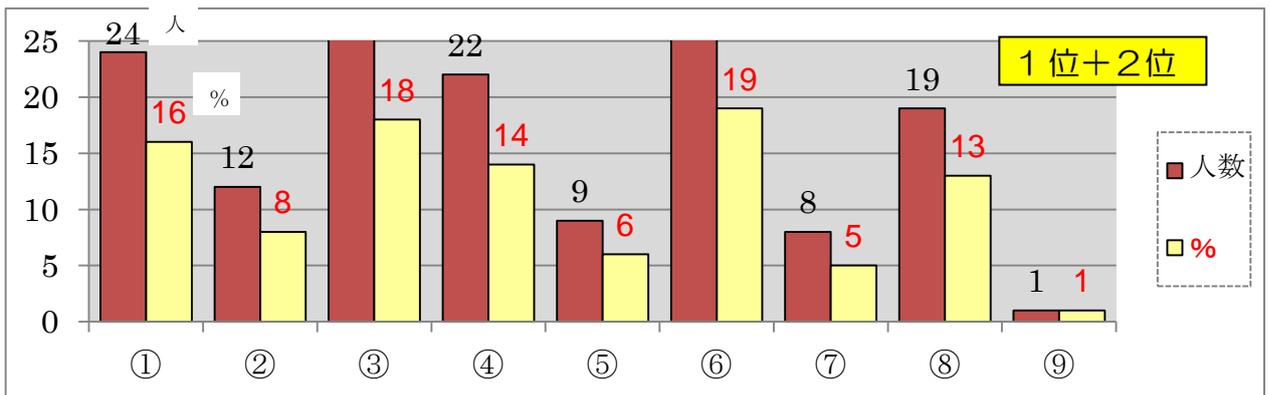
<4校全体では>



<各学年別の人数では>

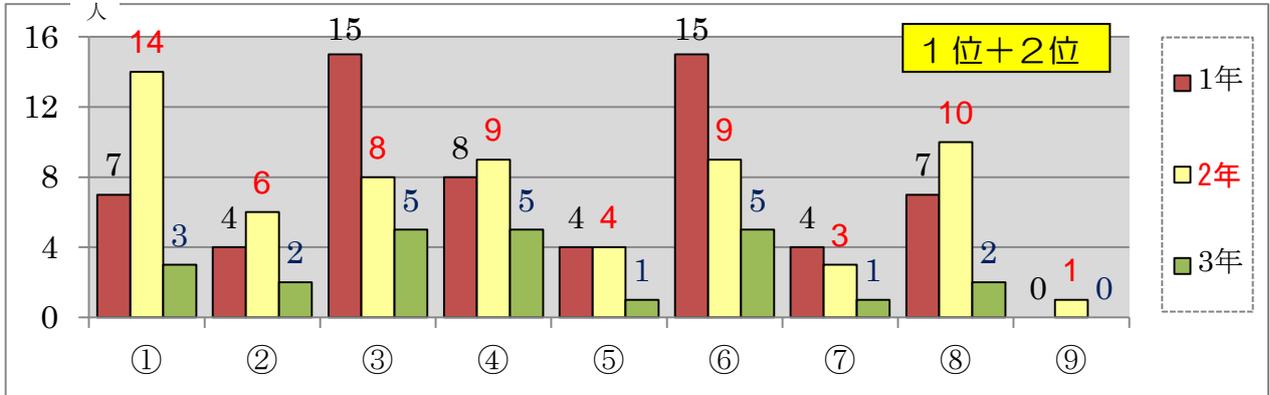


<4校全体では>



① 通学便	② 伝統や校風	③ 進路実績	④ 教育内容面	⑤ 施設設備面
⑥ クラブ活動面	⑦ 親や家族のすすめ	⑧ 友人関係	⑨ その他	

<各学年別の人数では>



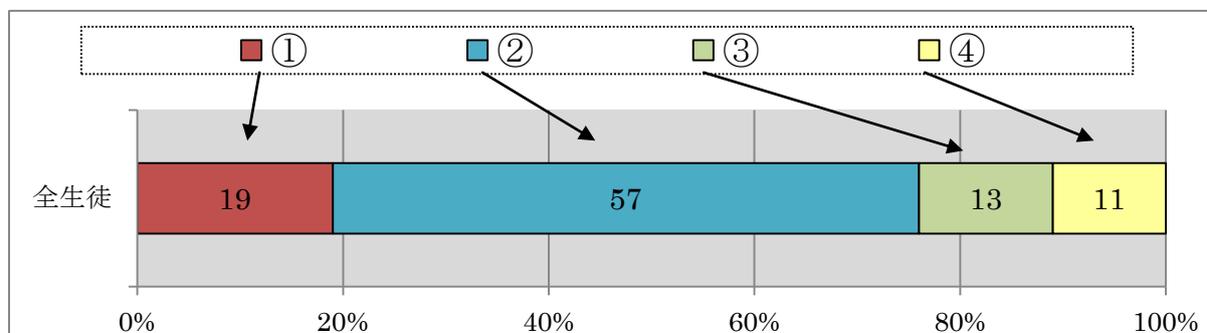
- ・ 4校全体での1位で多い順は、1位：③「進路実績」(24%)、2位：④「教育内容面」(22%)、3位：①「通学便」(17%)、4位：⑥「クラブ活動面」(16%)となっている。
- ・ 4校全体での2位で多い順は、1位：⑥「クラブ活動面」(22%)、2位：①「通学便」(15%)、3位：⑧「友人関係」(14%)、4位：③「進路実績」(13%)となっている。
- ・ 4校全体での1位+2位で多い順は、1位：「クラブ活動面」(19%)、2位：「進路実績」(15%)、3位：「通学便」(14%)、4位：「教育内容面」(13%)となっている。
- ・ 各学年別に見たときの特徴と言えることは、1学年は③「進路実績」と⑥「クラブ活動面」の二つが非常に多いが、2、3年生についてはどちらかという和多岐に分散化している傾向にある。

考察 対策としては、前述の③(3)の内容とほぼ同じことが言える。ただし、「通学便」については来年度から実施する支援内容もあるが、更なる支援策を継続検討していく必要がある。

Ⅱ. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（高校生）の結果と考察

① 本年度、油木高生全員に広報紙「連携型中高一貫教育」マガジン『高原の風』を配布しましたが、内容的にどうでしたか。

① よくわかった ② だいたいわかった ③ あまりわからなかった ④ 全然わからなかった



考察 本年度から高校生全員に毎回広報紙を配布してきたが、大半の生徒（76%）は「内容的に分かった」という肯定的評価である。しかし、「わからない」という否定的評価が20%を超しており、今後一層の工夫が必要である。

② (1) あなたは本年度、中高連携で町内の中学生を指導したり、一緒に活動したことがありますか。

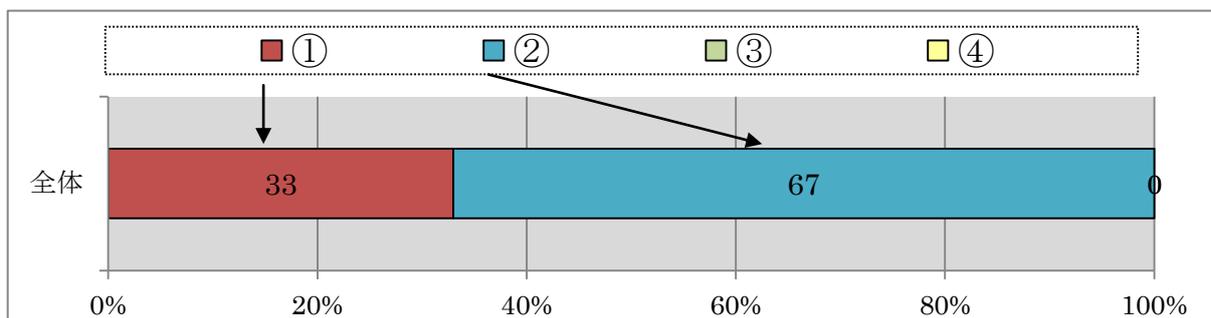
「ある」と答えた生徒は 26人（15%）で、昨年度12人（7%）より倍以上増加している。

その内容としては

・部活動（19人） ・出前授業（4人） ・オープンスクール（3人）
 ・ボランティア（1人） ・油高杯（1人）

(2) (1)の質問で「①ある」と答えた人で、それはどうでしたか。

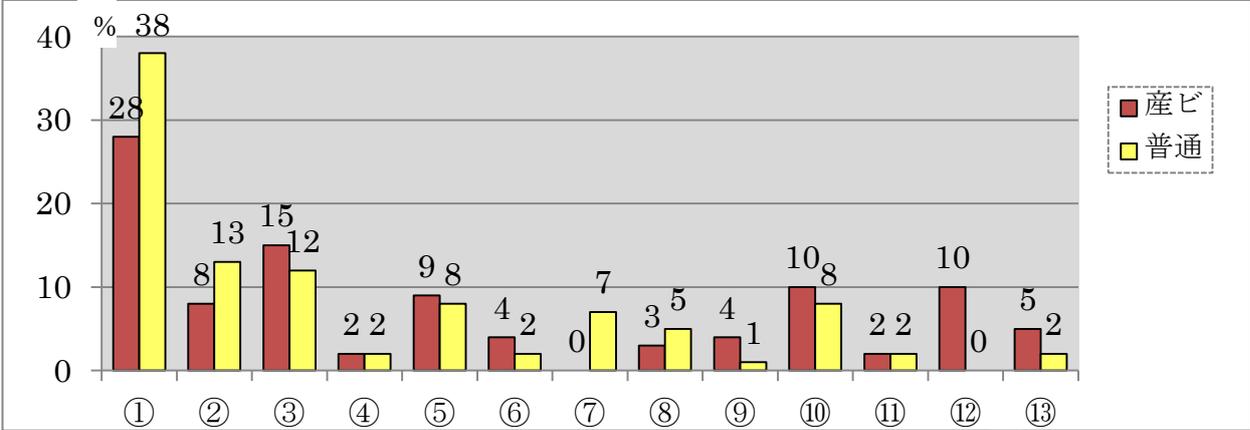
① とてもよかった ② よかった ③ あまりよくなかった ④ 全然よくなかった



考察 中高連携実践は、中高生共に大多数の生徒が好感をもっており、今後できるだけ実践の機会を増やしていくように努めていく必要がある。特に部活動交流を中心として取り組んでいく。

③ あなたが油木高校を進路選択した理由は何ですか。(複数回答可)

- | | | | |
|----------|-----------|-------------|-----------|
| ① 自宅から近い | ② 親・家族の薦め | ③ 自分の希望 | ④ 教育内容面 |
| ⑤ クラブ活動面 | ⑥ 寮がある | ⑦ 通信衛星授業がある | ⑧ 進学就職に有利 |
| ⑨ 評判 | ⑩ 友人関係 | ⑪ 経費が安い | ⑫ 学科への興味 |
| ⑬ その他 | | | |



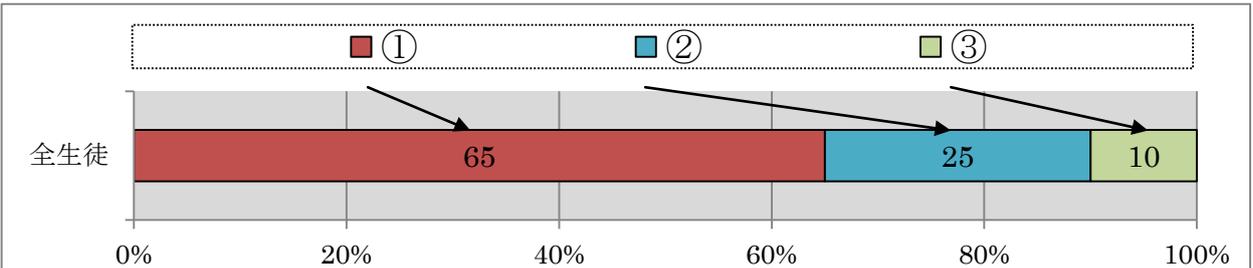
⑬ 「その他」の内容

・特に理由はない (4) ・自分の学力に相応 (3) ・担任の薦め (2) ・兄弟が通っている (1) など

考察 産ビ・普通科共に最も多かった理由は、「自宅から近い」で、地元高校を是非とも存続させていく必要がある。その他で多かったのは「自分の希望」「親・家族の薦め」「友人関係」などであるが、学科で特徴的な理由としては、産ビで「学科への興味」、普通科は「通信衛星授業がある」であった。昨年度との比較においても大きな差異はない。

④ 今の高校生活で不便さを感じていることはありませんか。

- | | | |
|--------------|-----------|------------|
| ① まったく感じていない | ② 少し感じている | ③ 大いに感じている |
|--------------|-----------|------------|



● 「② 少し感じている → どんなことですか?」 * () 内は人数

- ・通学に不便 (バスの本数・遠距離・待ち場所・経費負担) (14)
- ・冷暖房設備 (寒い) (7)
- ・耐震工事で不便, 騒音 (6)
- ・屋の売店がない (2)
- ・生徒数, 部員数の減少 (2)
- ・校舎の老朽化 (2)
- ・コンビニがない (2)
- ・校則に関して (2)

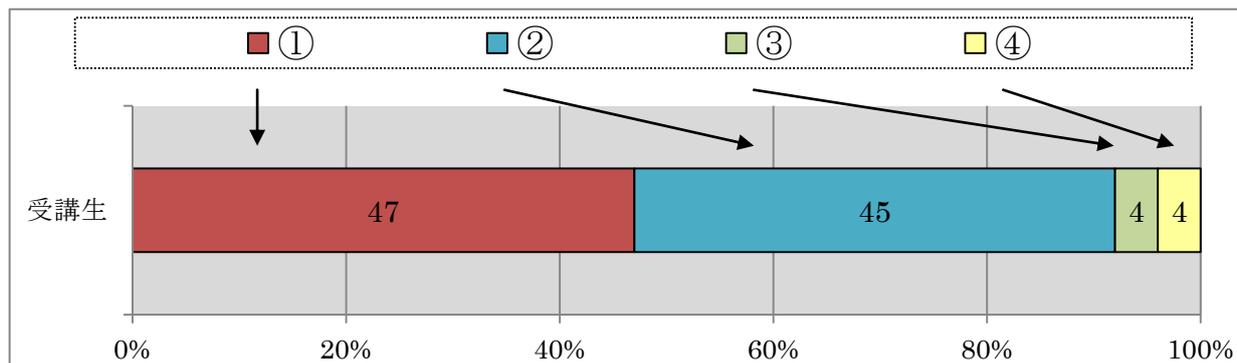
● 「③ 大いに感じている → どんなことですか?」 * () 内は人数

- ・冷暖房設備 (寒い) (5)
- ・通学に不便 (交通手段が少ない・遠距離) (3)
- ・工事中で不便 (3)
- ・教育面 (クラスが騒がしい) (2)
- ・お店が少ない (2)
- ・自販機が少ない (1)
- ・トイレの場所 (1)
- ・水道が止まる (1)

考察 多くの生徒（65%）は不便さを「まったく感じていない」ようであるが、大なり小なり「不便さを感じている」中身のうち、「通学に不便」が多く、そのことについては、今後本町としてできることを支援していく。（H25年度から郡外生徒へも通学費の補助をしていく） その他については、学校長や設置者側（県）の意見も聞きながら、対応していく必要がある。

⑤ 通信衛星授業を受けてみての感想はどうですか？ [受講回答者 70 人（普：53 人，産ビ：17 人）]

① 大いに役に立つ ② 少し役に立つ ③ あまり役に立たない ④ 全然役に立たない



● 「① 大いに役に立つ」理由として記入されていたものは

- ・分かりやすい（9）
- ・より深く学べる（6）
- ・センター試験や大学受験に役立つ（6）
- ・復習や授業に役立つ（5）
- ・有名講師の授業を安価で受けられる（1）
- ・学習意欲がわく（1）
- ・1年生時から受けておけばよかった（1）

● 「② 少し役に立つ」理由として記入されていたものは

- ・復習ができる（2）
- ・難問など色々な問題にチャレンジできる（2）
- ・分かりやすい（2）
- ・専門家の指導が受けられる（1）
- ・長時間なので途中で集中力が欠ける
- ・時々内容が難しい（1）
- ・ペースが速い（1）
- ・日程がバラバラで計画を立てにくい（1）
- ・レベルが高い（1）

● 「③ あまり役に立たない」理由として記入されていたものは

- ・内容が難しい（1）

● 「④ 全然役に立たない」理由として記入されていたものは

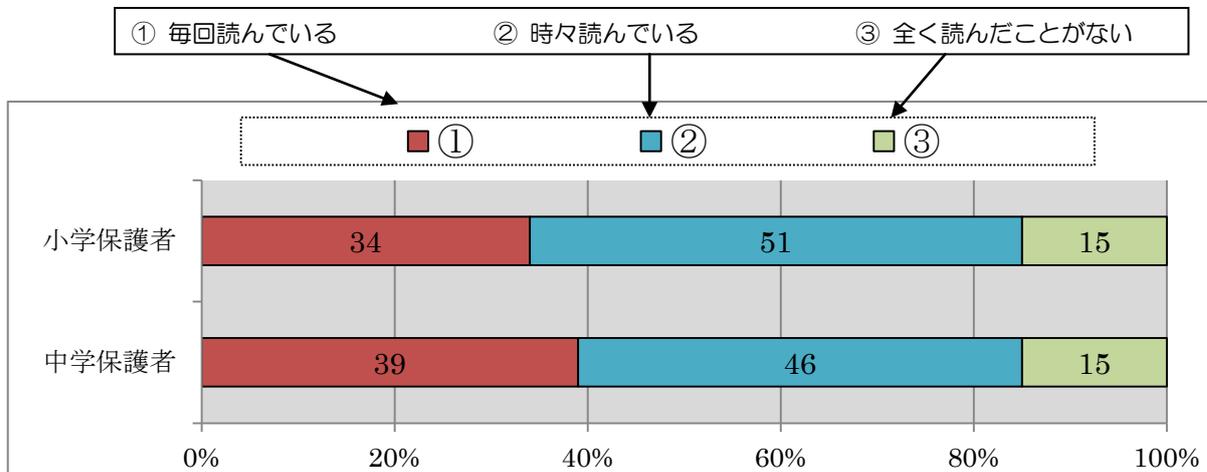
- ・ただのDVD（1）

考察 受講生の多くは普通科生（76%）であるが、大多数の生徒（92%）が「役に立つ」という肯定的回答であった。中でも「センター試験や大学受験に役立つ」と感じていることなどからも、今や普通科・産業ビジネス科共に大学進学志望者が多くなっていることから、この事業は続けていく必要がある。

また、前記の間③（油木高校を選択した理由）からも分かるように、普通科生の選択理由に「通信衛星授業がある」ことを上げている者が多いことから、この事業の継続が必要であると言える。

Ⅲ.連携型中高一貫教育に係るアンケート調査(小・中学校保護者)の結果と考察

① 広報紙「連携型中高一貫教育」マガジン『高原の風』を年3回町内全戸に配布していますが、読んだことがありますか。

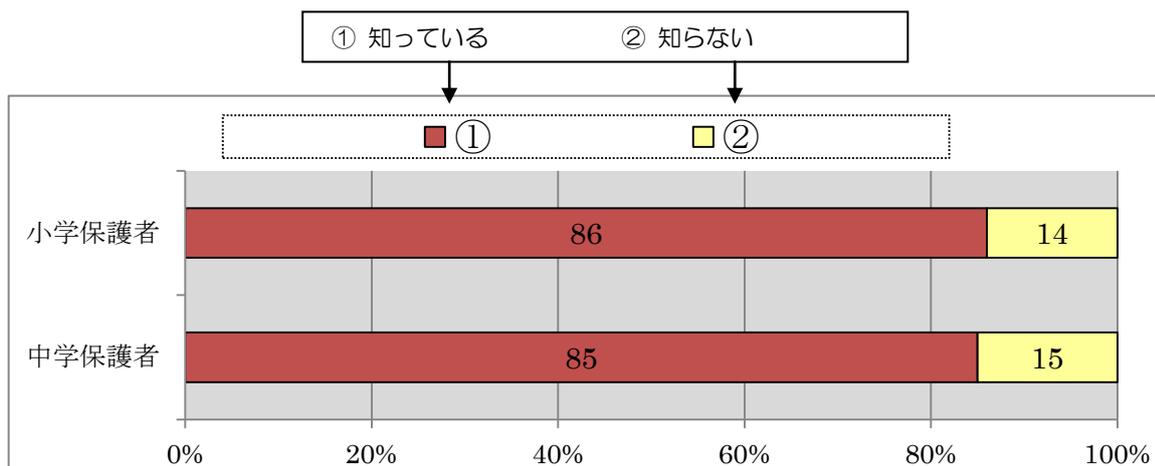


○ 「毎回読んでいる」「時々読んでいる」を合計すると、小・中学校共に85%と高率である。

○ 昨年度は「読んだことがある」が31%（小中の平均）で、大幅に伸びている。

考察 昨年度より「読んでいる」の肯定的評価が大幅に伸びた要因の一つに、町内全戸配布以外に小学校児童（5・6年生）、全中学生及び油木高校生にも配布したことも影響していると思われる。
 今後も関係児童生徒への配布は継続していく必要がある。また、一層魅力ある中身づくりに努力していかなければならない。

② 本町が連携型中高一貫教育の本格実施（目標：平成26年度）に向けて取り組んでいることを知っておられますか。

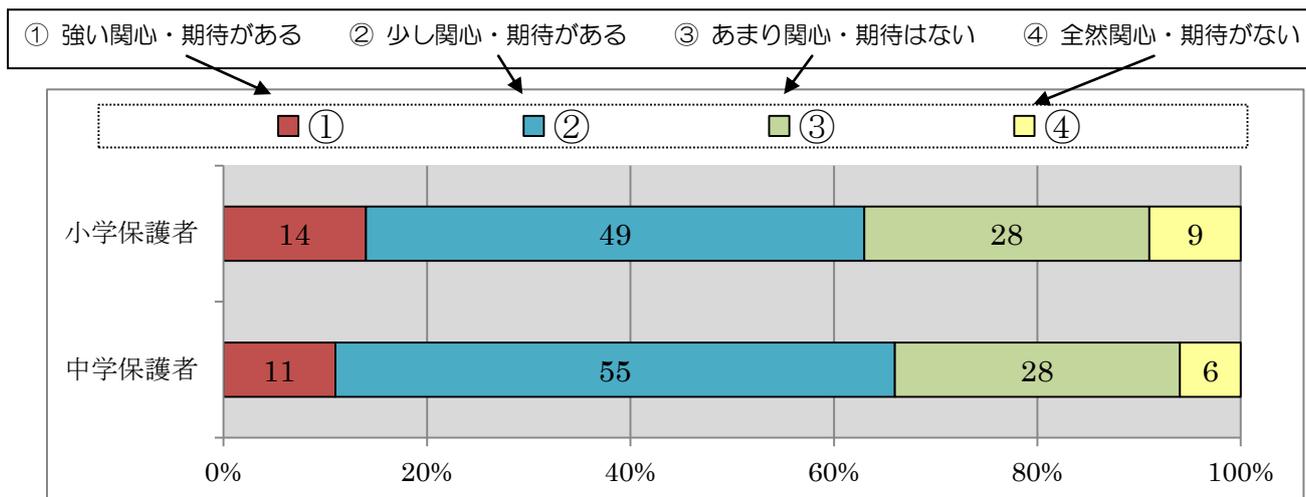


○ 小中学校共に「平成26年度本格実施へ向けた取組」を大多数の保護者が知っておられる。

○ 昨年度は、「知っている」の肯定的評価が小学校（46%）、中学校（60%）であった。 → 大幅な伸び

考察 大多数の保護者が「平成26年度からの本格実施へ向けた取組」を知っておられるだけに、是非ともそのことを実現していく必要がある。

③ 神石高原町連携型中高一貫教育への関心や期待がありますか。

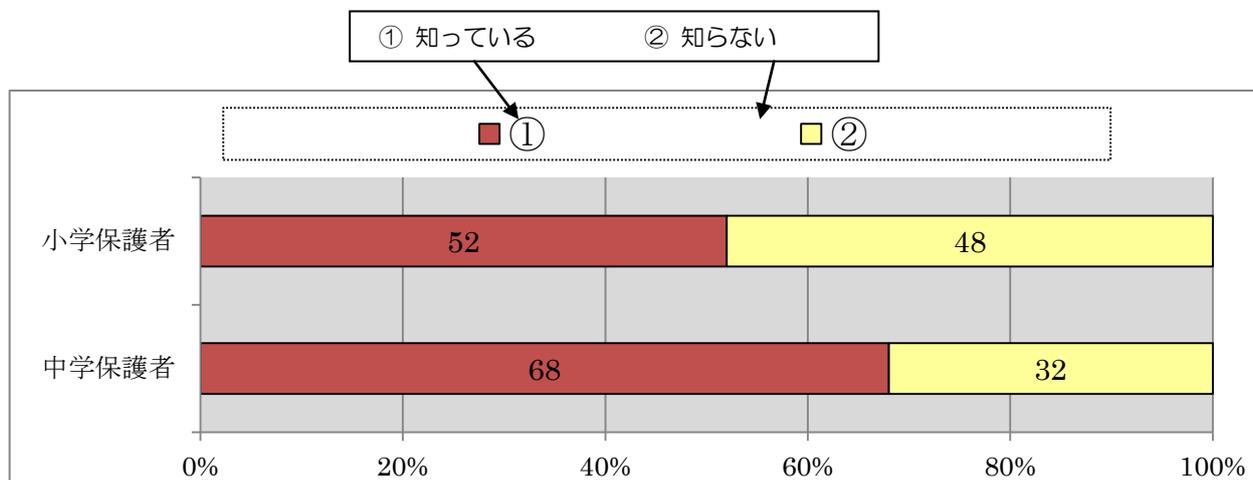


・ 「関心・期待度」の肯定的評価が小中学校共に60%以上（小：63%、中：65%）はある。しかし、昨年度の「関心度」肯定的評価は、小学校59%・中学校71%で、小学校は伸びているものの中学校は下がっている。

▲ アンケート回答中に若干名（3名）「関心はあるが、期待はしていない」というものがあった。

考察 半数以上の者が「関心・期待」をもっておられることから、その期待に応えるべく連携実践を通して教育効果を高め、教育実績を上げていく必要がある。そのことによって、否定的評価も減少していくであろう。

④ 本町が油木高校の教育活動推進や保護者負担軽減のために助成していることを知っておられますか。



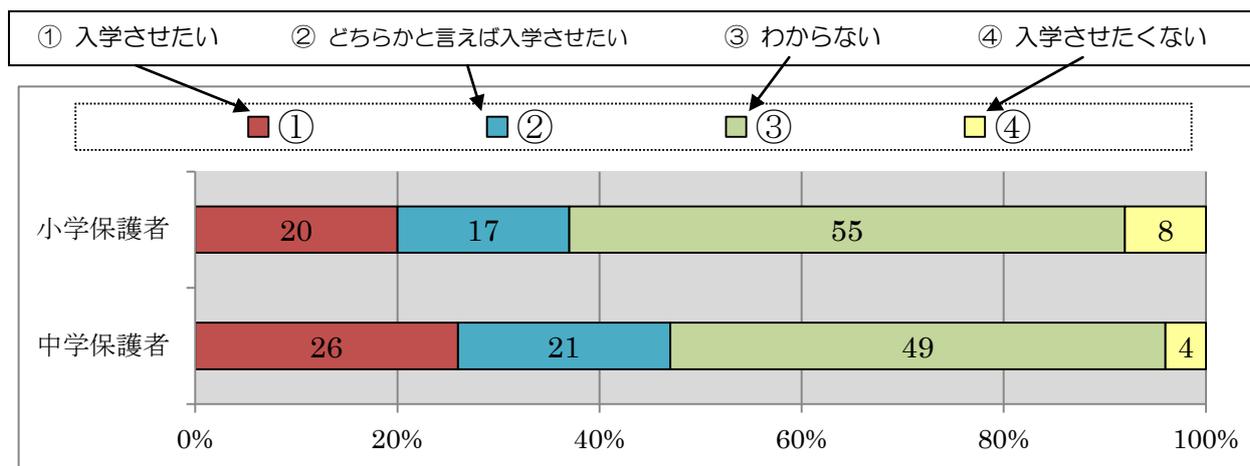
○ 昨年度と比較すると、小学校（34% → 52%）、中学校（54% → 68%）とそれぞれ伸びている。

● しかし、小学校は約半数、中学校は1/3がまだ知っておられない。

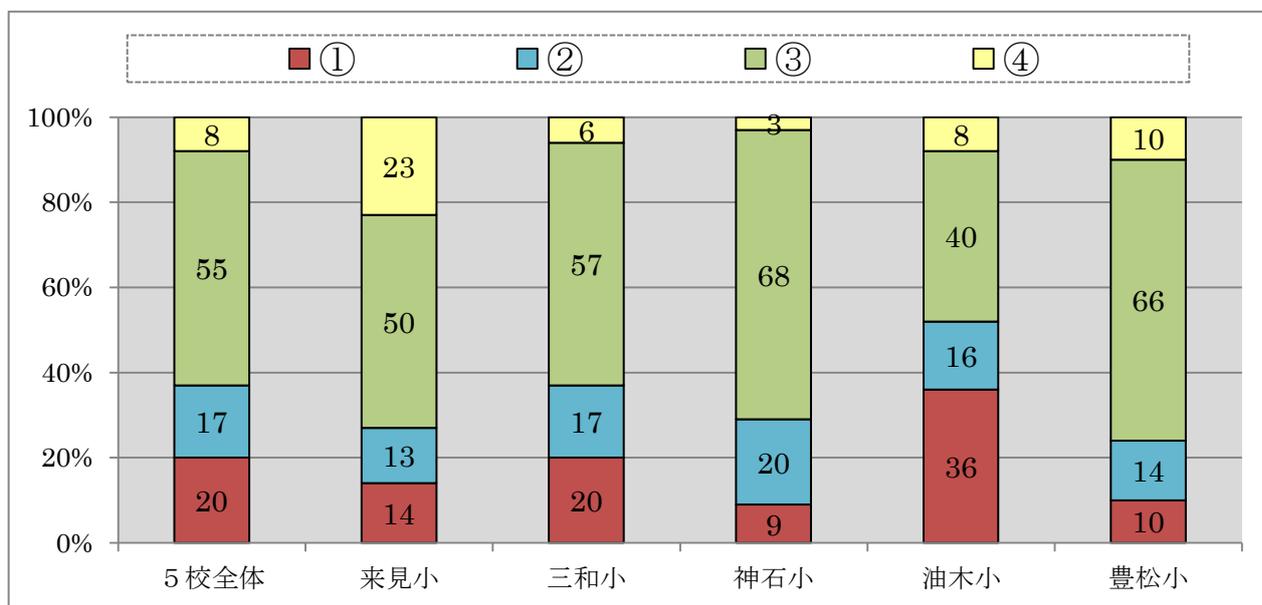
考察 本町が油木高校生へ色々な支援を実施していたり、検討していることについて広島県教育委員会は良い意味での驚きと共に高く評価をして頂いている。

今後も引き続き、他校にはない有利性を保護者へ機会あるごとに情報提供したり、アピールしていく必要がある。

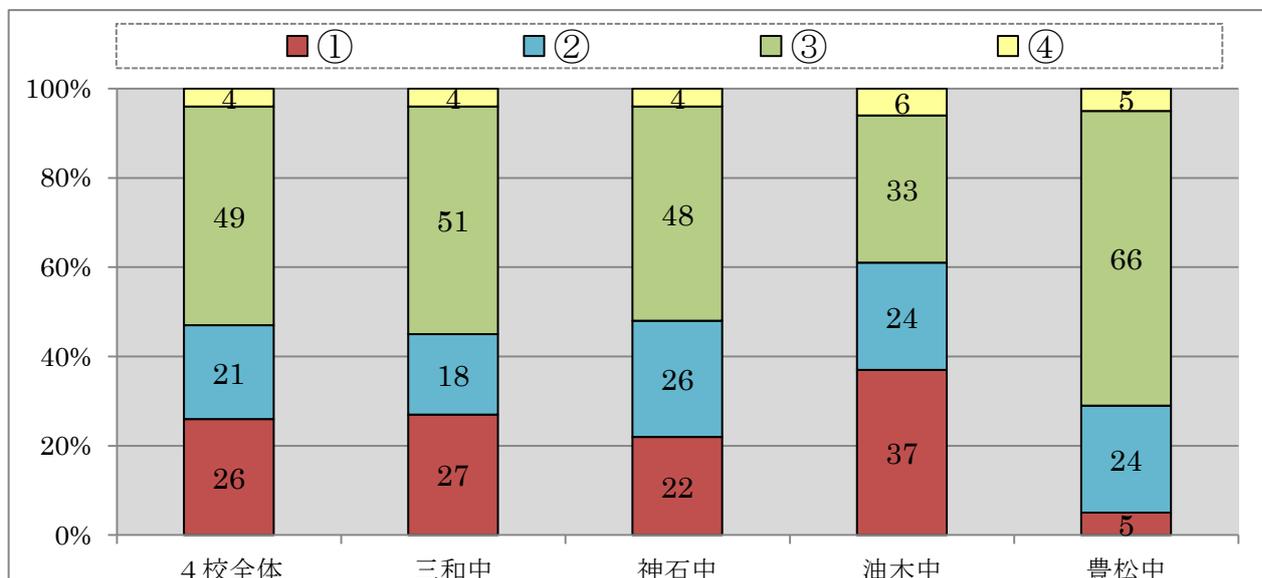
⑤ あなたの子どもさんを油木高校に進学させたいと思いますか。



<各小学校別では>



<各中学校別では>



- ・ 小中学校別では、「入学させたい」肯定的評価が10%ほど中学校が上回っている。一方、小学校はまだ高校への進路選択を具体的に考えにくいのか、「わからない」との回答率が小学校の方が高い。
- ・ 昨年度比では、小学校は、①：20% → 20%、②：18% → 17%、③：51% → 55%、④：11% → 8%
中学校は、①：35% → 26%、②：19% → 21%、③：41% → 49%、④：6% → 4%
で、あまり大きな変化はないが、中学校が若干「入学させたい」肯定的評価が下がっている。しかし、小中学校共に「入学させたくない」は減少している。
- ・ 各学校別では、油木地区が肯定的評価が最も高い。概ね小中学校とも傾向としては似通っている。
- 「入学させたくない」の回答率で、来見小学校（23%）と豊松小学校（10%）が2桁の数字である。

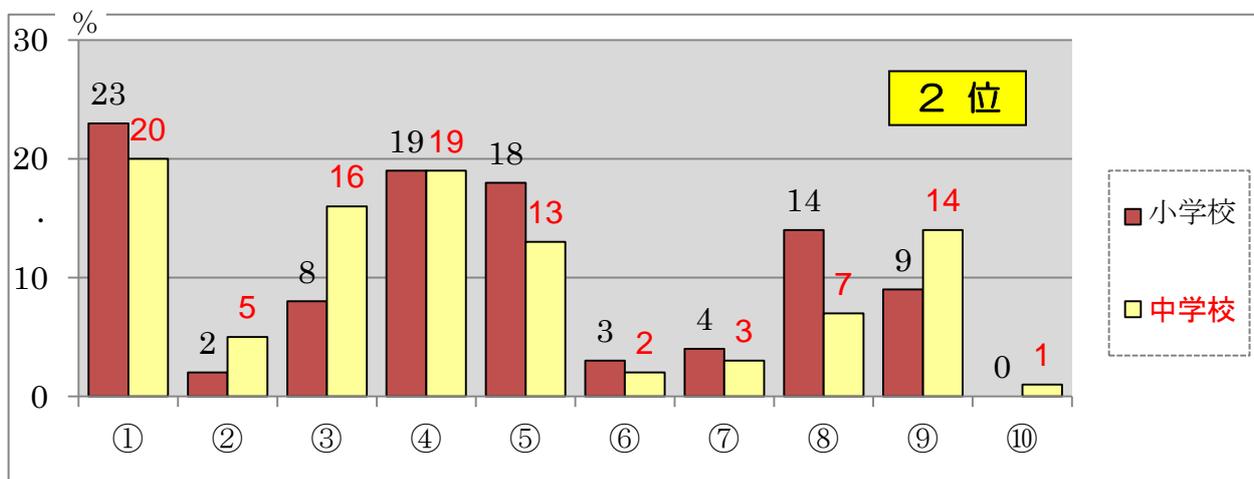
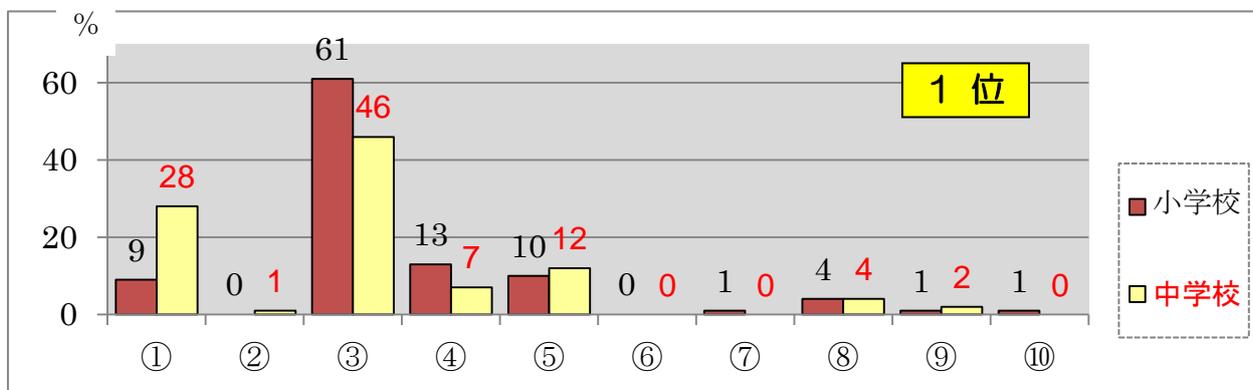
考察 概して、昨年度の数字とあまり大差はないが、中学校で「入学させたい」が35%→26%と9%減少していることや、その数字が1/3以下（小：20%、中：26%）であることが残念である。

しかし、「わからない」との回答率が約半数（小：55%、中：49%）であることから、今後の取組みによって「入学させたい」と思われるような教育実践や魅力づくりへ向けて、学校現場と教育行政との両面から努力していく必要がある。

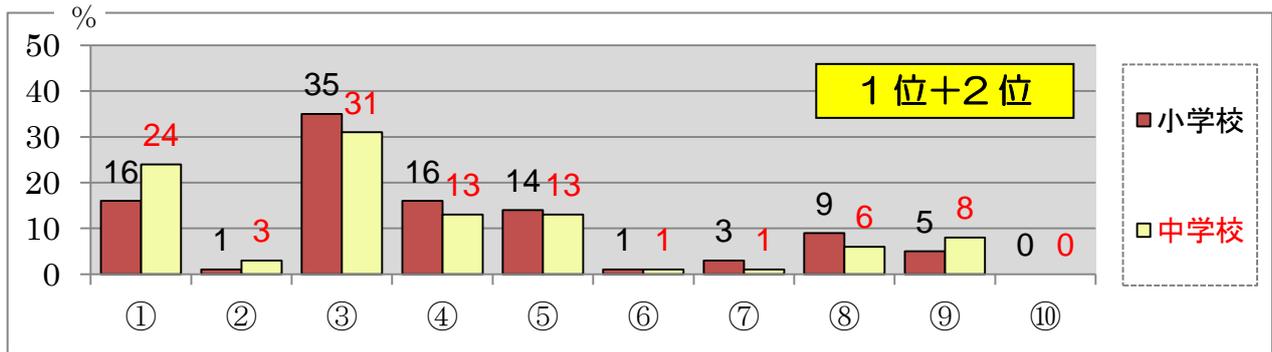
⑥ 子どもさんの高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことはどんなことですか。

下の①～⑩の中から重要視したい順番に2つ（1位・2位）選んでください。

- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
 ⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



- ・ 1位グループで多い順は、小学校で③「子ども本人の希望」(61%)が断トツ多く、次いで④「学習環境面」(13%)、⑤「教育内容面」(10%)の順、中学校でもやはり③「子ども本人の希望」(46%)が多く、次いで①「通学便」(28%)、⑤「教育内容面」(12%)となっている。
- ・ 2位グループでは小中学校とも全体的に低率で分散化している。その中で上位は小学校が①「通学便」(23%)、④「学習環境面」(19%)、⑤「教育内容面」(18%)で、中学校は①「通学便」(20%)、④「学習環境面」(19%)、⑤「教育内容面」(18%)である。
- ・ 1位+2位で多いのは、小学校が③「子ども本人の希望」(35%)、①「通学便」(16%)、④「学習環境」(16%)で、中学校も③「子ども本人の希望」(31%)、①「通学便」(24%)、④「学習環境」⑤「教育内容面」(13%)の順である。

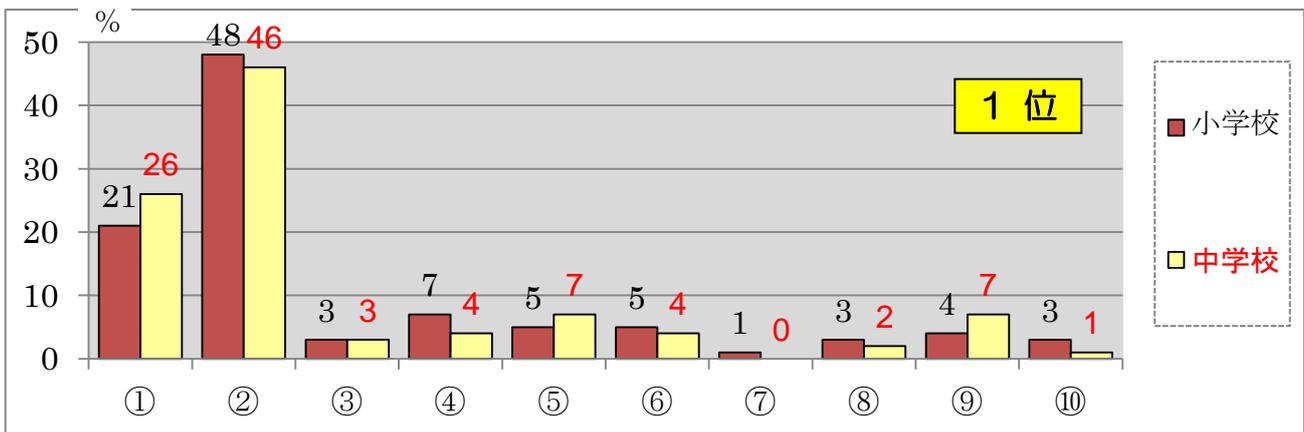
考察 全体的に言えることは、小中学校ともに③「子ども本人の希望」が際立って多く、続いて①「通学便」④「学習環境面」⑤「教育内容面」と続いている。

このことから、保護者の大多数(65%)は「子ども本人の希望」を最優先される傾向にあり、児童・生徒への油木高校の理解や関心を深めていく取組みが重要である。

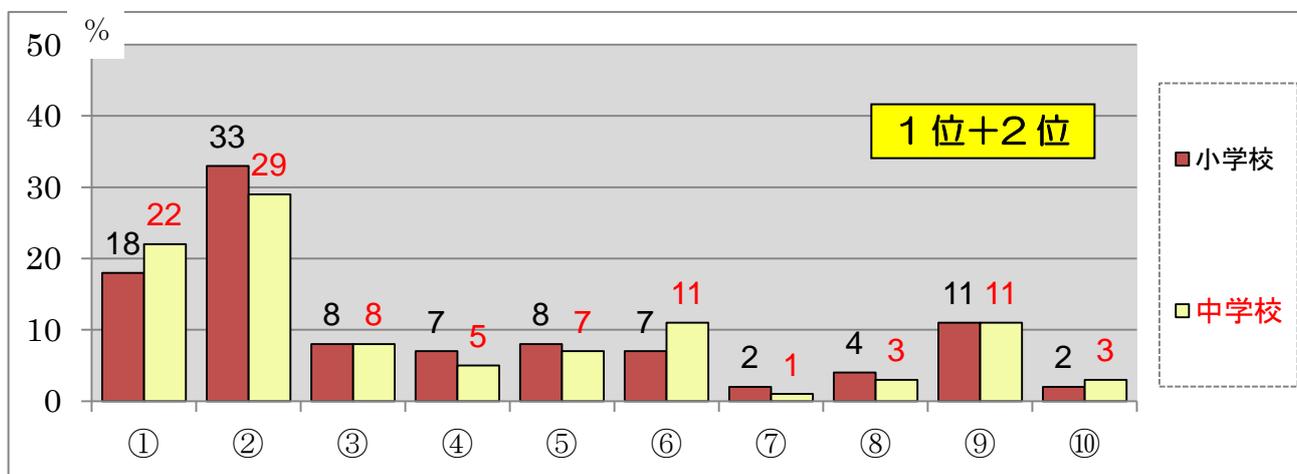
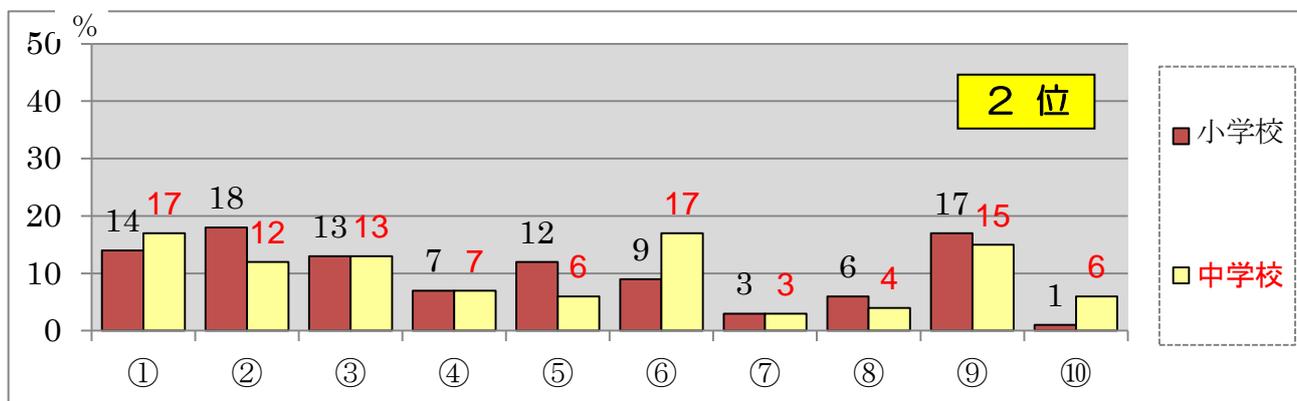
また、「通学便」(40%)もかなり重要度が高いことから一層の支援策を考え、魅力アップづくりにつなげていかなければならない。

7 油木高校の一層の魅力づくりとして、どんな支援策が必要だと思いますか。
 右の①～⑩の中から必要度の高い順番に2つ(1位・2位)選んでください。

- ① 通学便に係る支援 ② 学力充実への支援 ③ 部活動への支援 ④ 産業ビジョン科の取組支援
 ⑤ 町内就職に係る支援 ⑥ 施設設備充実への支援 ⑦ PR活動 ⑧ 豊かな心の育成支援(芸術鑑賞など)
 ⑨ 生徒への研修費補助(海外研修、農業研修など) ⑩ その他



- | | | | |
|--------------------------|--------------|-----------|---------------------|
| ① 通学便に係る支援 | ② 学力充実への支援 | ③ 部活動への支援 | ④ 産業ビヅ 初科の取組支援 |
| ⑤ 町内就職に係る支援 | ⑥ 施設設備充実への支援 | ⑦ PR 活動 | ⑧ 豊かな心の育成支援（芸術鑑賞など） |
| ⑨ 生徒への研修費補助（海外研修、農業研修など） | ⑩ その他 | | |



- ・ 1位グループでは、小中学校ともにほぼ同傾向にあるといえる。その中で②「学力充実への支援」と①「通学便に係る支援」が際立って多く、約70%を占めている。
- ・ 2位グループでは、小中学校ともに各項目へ分散化している傾向がある。その中での上位順は、小学校が②「学力充実への支援」(18%)、⑨「生徒への研修費補助」(17%)、①「通学便に係る支援」(14%)と続き、中学校は①「通学便に係る支援」⑥「施設設備充実への支援」(17%)が同率でトップ、続いて⑨「生徒への研修費補助」(15%)となっている。
- ・ 1位+2位においても、小中学校ともに ②「学力充実への支援」、①「通学便に係る支援」、⑨「生徒への研修費補助」の順に多く70%以上を占めている。

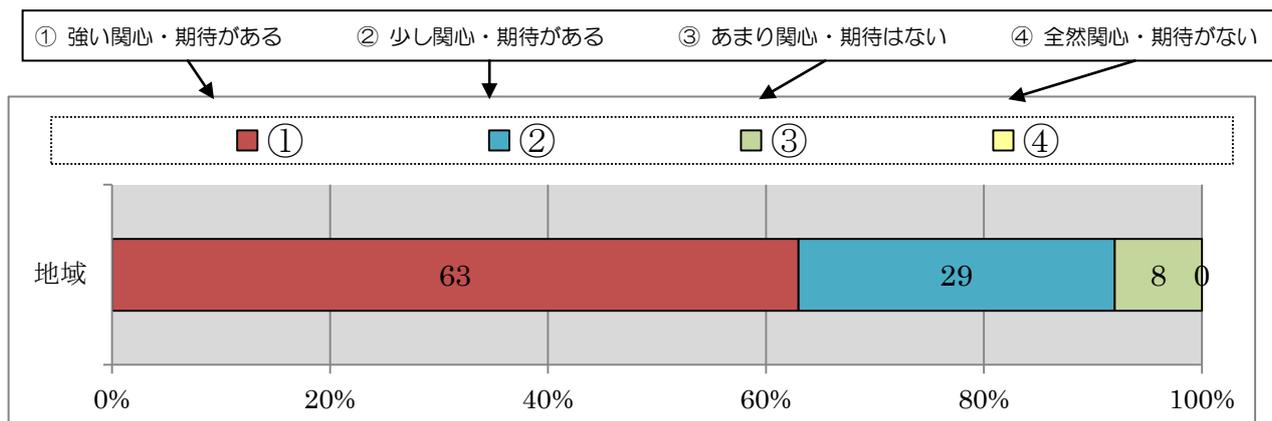
考察 以上のようなことから、保護者の多くは「学力充実への支援」、「通学便に係る支援」、「生徒への研修費補助」、そして「施設設備充実への支援」を望まれている。

そこで、「生徒への研修費補助」も含めた学力充実支援策を本町としてできうることを検討していくことと、現在高額支援している通信衛星授業などの利用率を一層高めていく必要がある。

一方、「通学便」について色々検討しているものの妙案がなかなか見つからないが、継続検討を要する。但し、遠距離通学者（町外）への補助を来年度から実施していくが、このことに関して県教委は高く関心をもっていただいている状況である。

「施設設備充実への支援」については、必要に応じて高校側と十分協議し、県教委への要望等必要があれば検討していく必要がある。

③ 神石高原町連携型中高一貫教育への関心や期待がありますか。



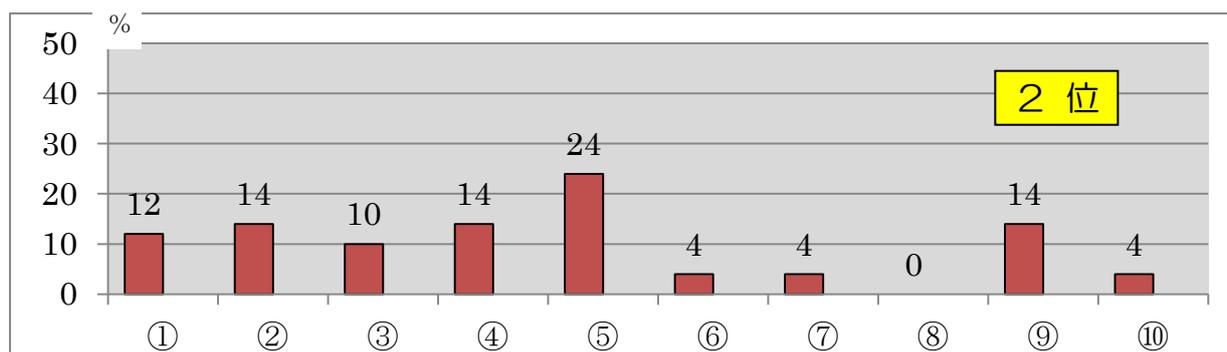
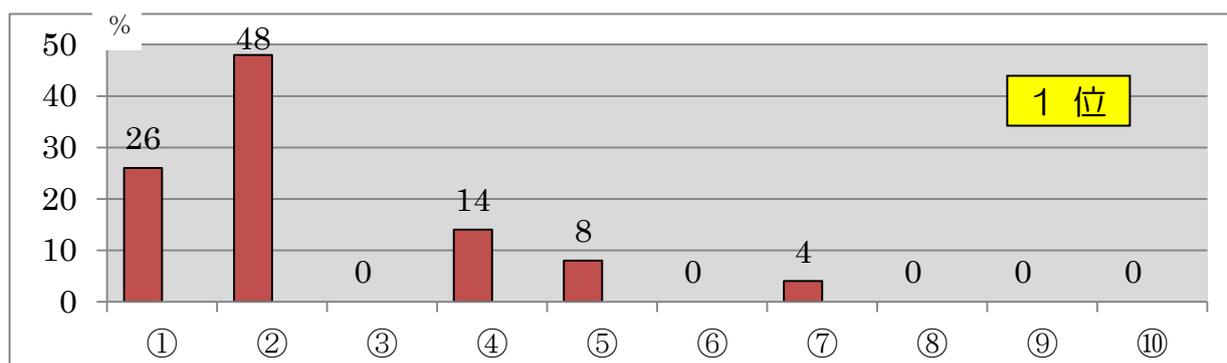
- ・ 「少し関心・期待がある」を含めた肯定的評価は、90%を上回っている。
- ・ 「強い関心・期待がある」が半数以上の63%を占めている。

考察 上のグラフ図が示すように、地域の多くの方々は関心や期待を持っていただいている。このことを力にして取り組みを前に進めていかなければならない。その意味でも先ずは、中高一貫教育本格実施の実現である。

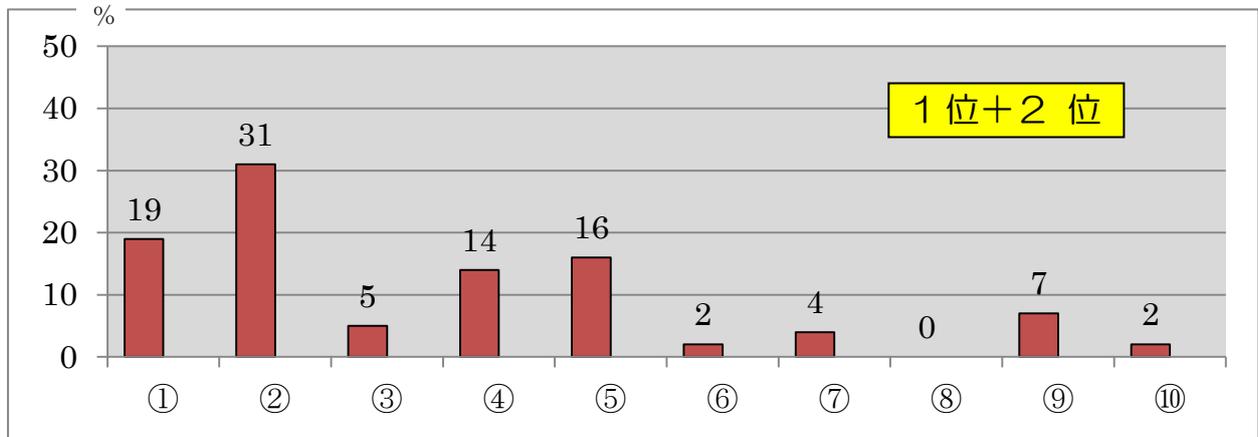
④ 油木高校の一層の魅力づくりとして、どんな支援策が必要だと思いますか。

下欄 ①～⑩の中から必要度の高い順番に2つ選び、番号で教えてください。

- ① 通学便に係る支援 ② 学力充実への支援 ③ 部活動への支援
 ④ 産業ビジネス科の取組への支援 ⑤ 町内就職に係る支援 ⑥ 施設設備の充実支援
 ⑦ PR活動 ⑧ 豊かな心の育成支援（芸術鑑賞・講演会など）
 ⑨ 生徒への研修費補助（海外研修・農業研修など） ⑩ その他（ ）



- | | | |
|--------------------------|-------------------------|-------------|
| ① 通学便に係る支援 | ② 学力充実への支援 | ③ 部活動への支援 |
| ④ 産業ビジネス科の取組への支援 | ⑤ 町内就職に係る支援 | ⑥ 施設設備の充実支援 |
| ⑦ PR活動 | ⑧ 豊かな心の育成支援（芸術鑑賞・講演会など） | |
| ⑨ 生徒への研修費補助（海外研修・農業研修など） | ⑩ その他（ ） | |



- ・ 1位グループでの上位は、1位：②「学力充実への支援」(48%)、2位：①「通学便に係る支援」(25%)、3位：④「産業ビジネス科の取組への支援」(16%)である。
- ・ 2位グループでの上位は、1位：⑤「町内就職に係る支援」(25%)、2位：②「学力充実への支援」(16%)、3位：①「通学便に係る支援」(14%)、小差で③「部活動への支援」、④「産業ビジネス科の取組への支援」、⑨「生徒への研修費補助」(11%)と続いている。
- ・ 1位+2位では、1位：②「学力充実への支援」(32%)、2位：①「通学便に係る支援」(19%)、3位：⑤「町内就職に係る支援」(16%)、4位：④「産業ビジネス科の取組への支援」(14%)である。
- ・ 地域の意見と小中学校保護者の意見が1位：②「学力充実への支援」、2位：①「通学便に係る支援」は同じであった。（ちなみに、保護者の3位：⑨「生徒への研修費補助」、そして第4位：⑥「施設設備充実への支援」である。）

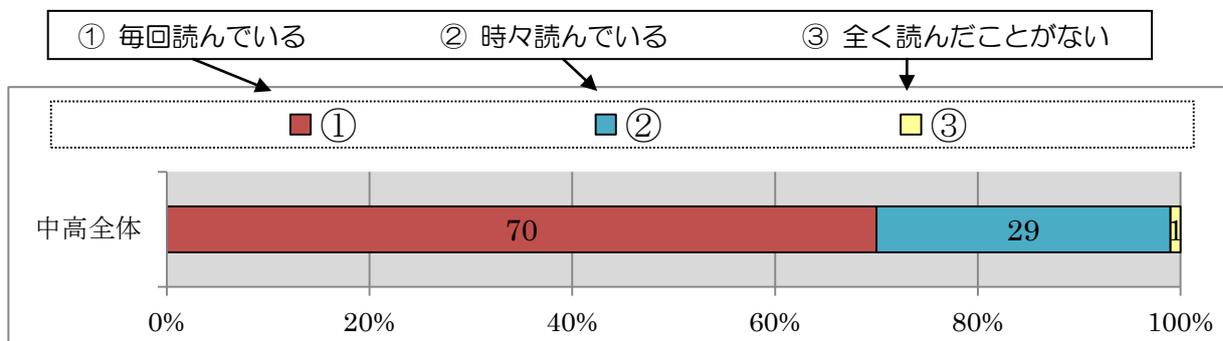
考察 以上のようなことから、地域の多くは②「学力充実への支援」、①「通学便に係る支援」、⑤「町内就職に係る支援」、そして④「産業ビジネス科の取組への支援」の順に強く望まれている。

そこで、地域・小中保護者ともに強く望んでおられる②「学力充実への支援」や①「通学便に係る支援」については、関係部署と十分に協議しながら、できる支援策を検討していく必要がある。

他の項目においても、高校側からの要望があれば検討していく。

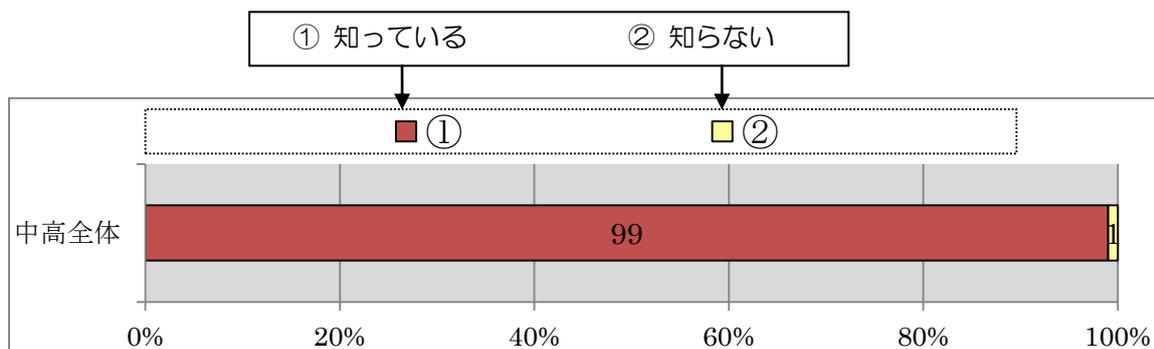
V. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（中高教職員）の結果と考察

① 広報紙「連携型中高一貫教育」年刊『高原の風』を年3回町内全学校に配布していますが、読んだことがありますか。



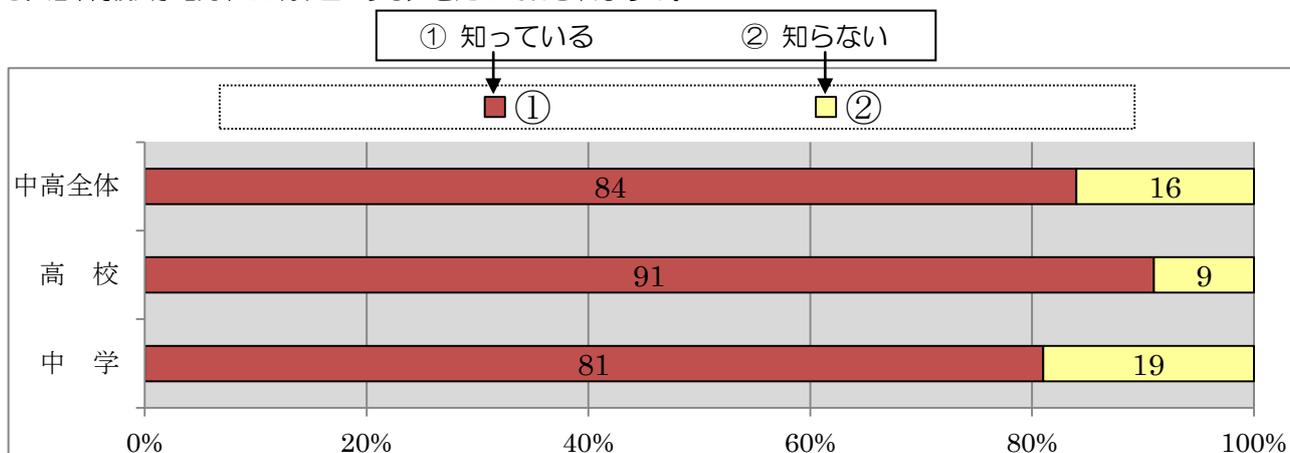
考察 大多数の教職員に読んでいただいている。そのためにも、今後一層教育指導に役立つ中身を情報提供していく必要がある。

② 本町が連携型中高一貫教育の本格実施（目標：平成26年度）に向けて取り組んでいることを知っておられますか。



考察 ほとんどの教職員が知っておられることが分かる。次なる課題は、それに向けた積極的な行動化にある。

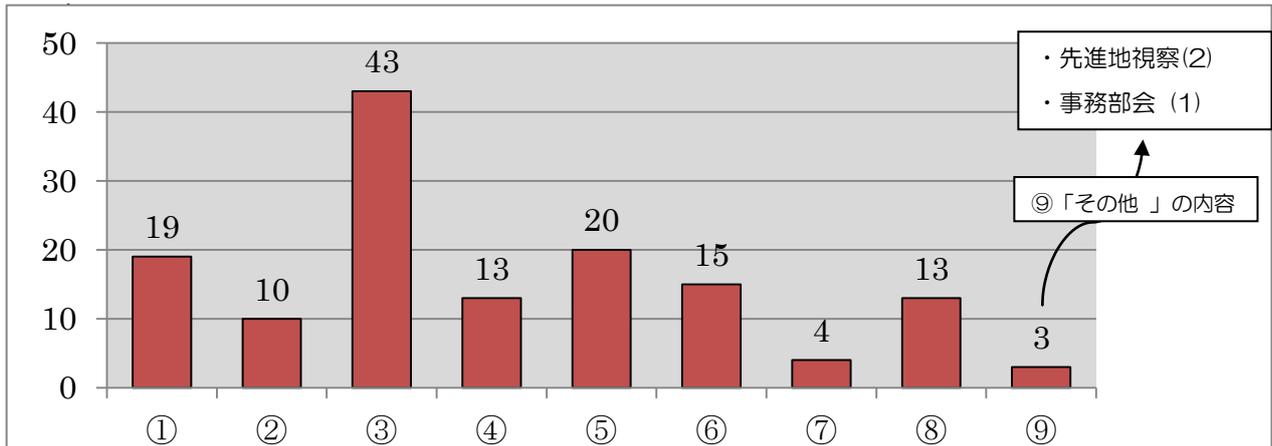
③ 本町の連携型中高一貫教育推進協議会が掲げている本年度の事業目標（中高連携教育で教育効果を上げる取り組みをしながら、油木高校入学地元率60%以上にする）を知っておられますか。



考察 本年度の事業目標についても、大多数の教職員は知っていただいている。この認識を意識した行動化がどれだけできたかが課題である。

- 4 (1) 下欄①～⑨の中高連携教育に係る取り組みの中で、本年度参加されたものがあれば、該当番号に○印で答えてください。(複数回答可) ④ 但し、⑦は高校のみ、⑧は中学校のみ ご回答ください。

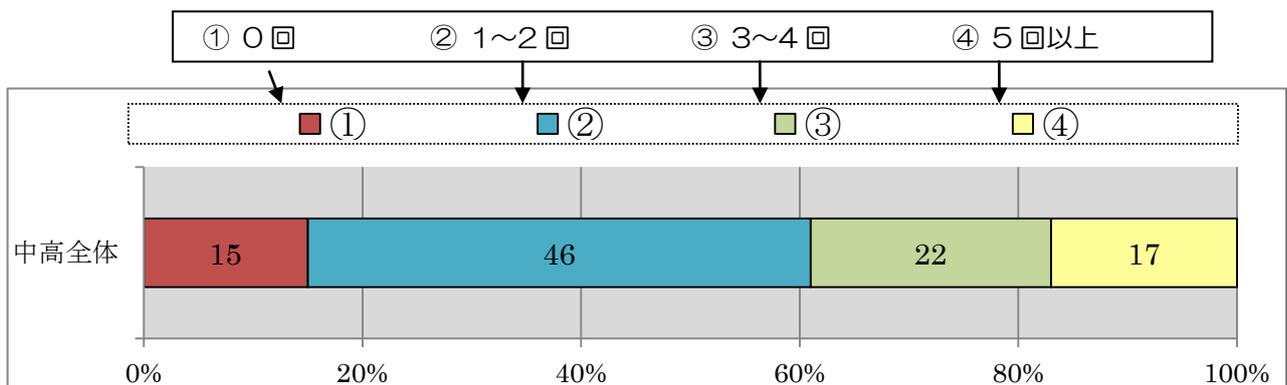
- ① 出前授業(高校英着入門講座も含む) ② 部活動交流 ③ 町研夏季全体研修会
 ④ 教科部会(授業研究など) ⑤ 教科外部会(進路・生指・連携など)
 ⑥ 中高一貫講演会(8月30日、講師：高階玲治、会場：油木) ⑦ 中学校の研究会(*高校のみ回答)
 ⑧ 油高の行事等(学園祭・オープンカール・農業系発表会・総合的な学習発表会・講演会・油高杯剣道大会など)(*中学校のみ回答)
 ⑨ その他()



考察 本年度の中高連携実践の柱を「部活動交流」としたが、時期や指導体制の困難さから十分な交流が出来なかった。しかし、体験した中高生は充実感をもって取り組んでいる者がほとんどで、今後は創意と工夫をもって一層充実させていくことが大切である。

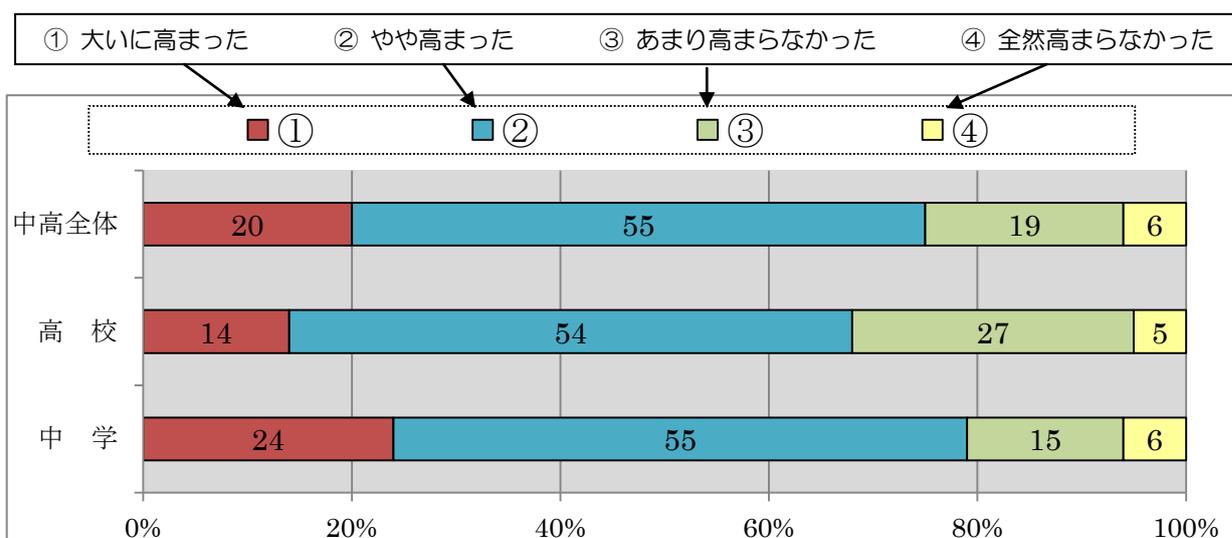
また、本年度は油高教職員の方々が町研会員として加入いただき、③「町研夏季全体研修会」では発表もいただいたり、教科部会へも参加いただくことができたことは大変意義深いことである。

- (2) 上記4(1)で、参加した回数は総合計で何回ありますか。



考察 0回を含めて2回までが61%と半分以上を占めている。中高一貫教育が本格実施されていないだけに、連携実践していく難しさもあるが、そこを乗り越えて連携実践の実績を少しでも高めていく必要がある。その為に、教職員一人一人に積極的な参加を呼びかけ続けていかなければならない。

(3) この1年間の中高連携の取り組みを通して、自分としては連携型中高一貫教育に係る意識（理解・関心・意欲）が高まりましたか。



考察 全体的には、概ね意識の高揚が見られる。しかし、本格実施目標年度が間近に迫って来ているだけに、「あまり高まらなかった」（19%）「全然高まらなかった」（6%）の否定的評価が25%は気になるところである。教職員の意識が生徒や保護者に大きく影響するところもあるので、一考を要する。